2021 STUDENTS' GUIDE

全学教育科目履修の手引

名古屋大学

2021年度全学教育に関する行事予定表(教養教育院)

学期	月　日（曜日）	行　　事	備　考
春学期	4 月　3 日（ 土 ）	新入生履修ガイダンス	
	4 月　3 日（ 土 ） ～　4 月　4 日（ 日 ）	履修登録Web入力期間	※
	4 月　4 日（ 日 ）	英語ﾌﾟﾚｲｽﾒﾝﾄ･ﾃｽﾄ(TOEFL ITP・Criterion試験)	
	4 月　5 日（ 月 ）	入学式	
	4 月　6 日（ 火 ）	英語ﾌﾟﾚｲｽﾒﾝﾄ･ﾃｽﾄ((TOEFL ITP・Criterion試験)	
	4 月　7 日（ 水 ） ～　4 月　9 日（ 金 ）	1年生定期健康診断	
	~~4 月　8 日（ 木 ）~~	~~日本学生支援機構奨学金ガイダンス~~ 名大HPの教育/キャンパスライフから「入学後に受けられる各種免除・奨学支援」に掲載	
	4 月　9 日（ 金 ）	履修科目Web確認開始　（1回目確認）	※
	4 月 12 日（ 月 ）	春学期授業開始	※
	4 月 12 日（ 月 ） ～　4 月 19 日（ 月 ）	履修登録修正Web入力期間	※
	4 月 12 日（ 月 ） ～　4 月 28 日（ 水 ）	2年生定期健康診断（web予約）	
	5 月　7 日（ 金 ）	履修科目Web確認開始　（2回目確認）	※
	6 月 10 日（ 木 ） ～　6 月 11 日（ 金 ）	名大祭による休講	
	7 月 26 日（ 月 ） ～　8 月　6 日（ 金 ）	試験・授業期間	◆曜日指定あり 授業日 5/8（土）[木曜午後] 6/26（土）[木曜] 7/17（土）[金曜]
	8 月　6 日（ 金 ）	春学期授業終了	
	8 月　8 日（ 日 ） ～　9 月 30 日（ 木 ）	夏季休業	
	8 月 19 日（ 木 ） ～　8 月 20 日（ 金 ）	追試験　（予定）	◆曜日指定なし授業予備日 5/29（土） 7/22（木）
	8 月 25 日（ 水 ）	春学期修得科目Web確認	
	8 月 25 日（ 水 ） ～　8 月 27 日（ 金 ）	再試験春学期当該期受験申請期間　（予定）	
	9 月　1 日（ 水 ） ～　9 月　3 日（ 金 ）	再試験　（予定）	
秋学期	9 月 14 日（ 火 ） ～　9 月 22 日（ 水 ）	履修登録Web入力期間	※
	9 月 27 日（ 月 ）	秋季卒業式	
	9 月 29 日（ 水 ）	履修科目Web確認開始　（1回目確認）	※
	10 月　1 日（ 金 ）	秋季入学式	
	10 月　4 日（ 月 ）	秋学期授業開始	※
	10 月　4 日（ 月 ） ～ 10 月 11 日（ 月 ）	履修登録修正Web入力期間	※
	10 月 25 日（ 月 ）	履修科目Web確認開始　（2回目確認）	※
	10 月 28 日（ 木 ）	地震防災訓練	
	12 月 18 日（ 土 ）	TOEFL ITP試験	
	12 月 28 日（ 火 ） ～　1 月　7 日（ 金 ）	冬季休業	
	1 月　7 日（ 金 ）	Criterion試験	
	1 月 14 日（ 金 ）	大学入学共通テストの準備（休講予定）	◆曜日指定あり授業日 11/29（月）[水曜] 12/25（土）[金曜]
	1 月 15 日（ 土 ） ・　1 月 16 日（ 日 ）	大学入学共通テスト	
	1 月 26 日（ 水 ） ～　2 月　8 日（ 火 ）	試験・授業期間	
	2 月　8 日（ 火 ）	秋学期授業終了	
	2 月 16 日（ 水 ） ・　2 月 17 日（ 木 ）	追試験　（予定）	◆曜日指定なし授業予備日 11/20（土） 1/22（土）
	2 月 18 日（ 金 ）	秋学期修得科目Web確認開始	
	2 月 18 日（ 金 ） ～　2 月 22 日（ 火 ）	再試験秋学期当該期受験申請期間　（予定）	
	3 月　1 日（ 火 ） ～　3 月　3 日（ 木 ）	再試験　（予定）	
	3 月 25 日（ 金 ）	卒業式	

※『履修手続きに関する注意事項』参照

目　次

Ⅰ　はじめに ---------- 1

Ⅱ　教育目標 ---------- 3

Ⅲ　全学教育科目の意義 ---------- 4
1.　科目区分 ---------- 4
2.　科目区分とその内容 ---------- 4

Ⅳ　本学の授業実施方法 ---------- 6
1.　学年と学期 ---------- 6
2.　期 ---------- 6
3.　休業日 ---------- 6
4.　授業時間 ---------- 6
5.　授業科目と単位制度 ---------- 7
6.　成績評価及び GPA 制度 ---------- 8
7.　成績評価に関する問合せ ---------- 9
8.　クラス編成 ---------- 10

Ⅴ　卒業・進級のために修得すべき授業科目・単位 ---------- 11
学部・学科別授業科目区分ごとの履修基準一覧
1.　文学部（2021・2020 年度入学生用） ---------- 12
2.　教育学部（2021・2020 年度入学生用） ---------- 14
3.　法学部（2021 ・2020 年度入学生用） ---------- 16
4.　経済学部（2021・2020 年度入学生用） ---------- 18
5.　情報学部：自然情報学科（2021・2020 年度入学生用） ---------- 20
6.　情報学部：人間・社会情報学科（2021・2020 年度入学生用） ---------- 22
7.　情報学部：コンピュータ科学科（2021・2020 年度入学生用） ---------- 24
8.　理学部：数理学科（2021・2020 年度入学生用） ---------- 26
9.　理学部：物理学科（2021・2020 年度入学生用） ---------- 28
10.　理学部：化学科（2021・2020 年度入学生用） ---------- 30
11.　理学部：生命理学科（2021・2020 年度入学生用） ---------- 32
12.　理学部：地球惑星科学科（2021・2020 年度入学生用） ---------- 34
13.　医学部：医学科（2021・2020 年度入学生用） ---------- 36
14.　医学部：保健学科（2021 ・2020 年度入学生用） ---------- 38
15.　工学部：化学生命工学科（2021・2020 年度入学生用） ---------- 40
16.　工学部：物理工学科（2021・2020 年度入学生用） ---------- 42
17.　工学部：マテリアル工学科（2021・2020 年度入学生用） ---------- 44
18.　工学部：電気電子情報工学科（2021・2020 年度入学生用） ---------- 46
19.　工学部：機械・航空宇宙工学科（2021・2020 年度入学生用） ---------- 48
20.　工学部：エネルギー理工学科（2021・2020 年度入学生用） ---------- 50
21.　工学部：環境土木・建築学科（2021・2020 年度入学生用） ---------- 52
22.　農学部（2021・2020 年度入学生用） ---------- 54

Ⅵ　授業時間割と履修計画 ---------- 56
1.　履修計画の重要性 ---------- 56
2.　コースナンバリング ---------- 56

3. 学部別「言語文化」履修の指針 ---------- 57
4. 全学教育科目の授業時間割表（COURSE TIMETABLE）について ---------- 61
5. 全学教育科目授業要覧（SYLLABUS）について ---------- 61

Ⅶ 名古屋大学全学教育科目規程 ---------- 62

Ⅷ 各授業科目 ---------- 72
1. 授業科目表及び履修に関する注意事項 ---------- 72
(1) 基礎セミナー ---------- 72
(2) 言語文化 ---------- 74
(3) 健康・スポーツ科学 ---------- 92
(4) 文系基礎科目 ---------- 98
(5) 理系基礎科目 ---------- 99
(6) 文系教養科目 ---------- 100
(7) 理系教養科目 ---------- 101
(8) 全学教養科目 ---------- 102
(9) 開放科目 ---------- 103
2. 開講の目的とねらい ---------- 104

Ⅸ 履修手続と履修 ---------- 105
1. 履修手続 ---------- 105
2. 受講調整 ---------- 105
3. 履修 ---------- 105
4. 重複履修科目の単位 ---------- 105
5. 再履修・単位の補充 ---------- 106

Ⅹ 試験と成績 ---------- 107
1. 試験 ---------- 107
2. 追試験 ---------- 107
3. 再試験 ---------- 107
4. 不正行為について ---------- 108
5. 成績評価 ---------- 108
6. GPA 制度の導入と成績評価（「W」と「F」）の扱いについて ---------- 109
7. 既修得単位の認定 ---------- 110

Ⅺ 自然災害等に伴う授業及び学期末試験の取扱い ---------- 111
1. 台風に伴い，名古屋市に暴風警報が発表された場合 ---------- 111
2. 地震・火災が発生した場合 ---------- 111
3. 「南海トラフ地震に関する情報（臨時）」が発表された場合 ---------- 111
4. その他，災害が発生した場合，もしくは発生のおそれがある場合 ---------- 111
5. 代替措置 ---------- 111

Ⅻ　学生への情報連絡の手段等 ---------- 112
1.　掲示板 ---------- 112
2.　教養教育院ホームページ ---------- 112
3.　名古屋大学ポータル ---------- 112
4.　名古屋大学 ID と NUCT ---------- 113
5.　休講・補講の連絡 ---------- 114
6.　名古屋大学教養教育院の公式 Twitter ---------- 114

ⅩⅢ関係資料 ---------- 115
1.　名古屋大学における言語文化教育 ---------- 115
2.　外国語の履修について ---------- 115
3.　全学基礎科目（言語文化）：各言語の案内 ---------- 117
4.　東海国立大学機構設置による新たな取組 ---------- 117
5.　全学教育棟などの講義室配置図 ---------- 118

◎　**教養教育院大地震対応マニュアル** ---------- 120

Ⅰ　はじめに

日本の国立大学は，平成 16 年 4 月から国立大学法人となり，大学の仕組みが大きく変わりました。

名古屋大学は，このような国立大学をめぐる状況の変化をいち早く受けとめ，21 世紀の国際社会における本学の教育，研究，人材育成について，全学をあげて真剣に議論をし，平成 12 年 2 月に「名古屋大学学術憲章」を制定しました。

そして，名古屋大学は研究面における拠点大学であると同時に，教養教育の重点大学とすることを社会に公表しました。「学術憲章」では，自発性を重視する教育実践によって，論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てることを基本目標の一つとして掲げています。

この方針の下に，平成 6 年 4 月から実施されてきた学部四年一貫教育（医学部医学科は六年一貫教育。），全学共通教育の教育体制を刷新する教育改革に取り組み，平成 13 年 12 月に教養教育院を起ち上げ，平成 15 年 4 月から新しい教育体制の下で教養教育を実施することとなりました。

「全学教育」とは，名古屋大学学術憲章が定めるところの本学の学生に相応しい基礎教育及び教養教育を目標とし，その内容と実施について全学で責任を負う教育をいいます。

この新しい全学教育体制は従来の学部四年一貫教育，全学共通教育の成果を継承し，総合大学，基幹大学である本学のメリットを十二分に生かし，初年次から本学の全教員が責任をもって教育を担当し，めざましい教育効果をあげていくことを目指した教育システムです。

大学の教育には，数学や理科のように高校までの教育との連続性が比較的強い分野もありますが，ものの見方や考え方が高校までとはある程度異なる分野があることは否定できません。そこで全学教育においては大学に入学した学生諸君の大学教育への導入を目的として全学基礎科目・基礎セミナーや文系･理系の基礎科目を用意し,大学で勉強する学問についての基礎的な学力を身につけたうえで，より幅広い学識の養成を目的とした教育科目を履修することとしています。この基礎科目には，学生諸君の専門科目に直結した科目と隣接分野の科目とが含まれています。また，教養科目には，文系・理系いずれの学生にも必要な知識教養の涵養を目的とした全学教養科目をはじめとして，文系・理系に亘る教養科目があります。文系学生に理系科目，理系学生に文系科目の履修を義務付けるいわゆる「たすきがけ」教育を実施して，より複眼的，総合的判断能力が身につくよう配慮しています。

さらに，国際化への対応も「全学教育」の重要なテーマです。外国語を文化とともに学ぶことによって，この目的を達成しようとしています。これが，全学基礎科目・言語文化です。この全学基礎科目には，現代社会における生涯健康とスポーツに関する基本的知識と実践的能力の涵養を目的とする健康・スポーツ科学が含まれています。

この「全学教育科目履修の手引　STUDENTS’GUIDE」は，本学の学生が全学教育科目を履修するにあたり，あらかじめ知っておかなければならない学修上の注意事項をまとめたものです。皆さんは本冊子をよく読むとともに，入学当初に開催する「学部ガイダンス」にも必ず出席して，間違いのないように，しかも自立的，自発的に賢明に授業計画を立ててください。皆さんが授業計画を立てるにあたって不明点や疑問点があれば，所属学部の教務担当窓口または教養教育院事務室に問い合わせてください。また，指導教員（クラス担任）も皆さんの様々な疑問に応じてくれますから，遠慮なく訪問するようにしてください。

学生の皆さんは，教務システム（名古屋大学ポータル（https://portal.nagoya-u.ac.jp/）の「授業・研修」タブ内の」「学務」からログイン）に掲載している「シラバス」を十分に活用するようにしてください。授業の情報を「シラバス」として学生に予め提供するのは，学生自身の主体性と学ぶ意欲が最も重要であると考えているからです。全学基礎科目（基礎セミナー，言語文化，健康・スポーツ科学），文系基礎科目，理系基礎科目，文系教養科目，理系教養科目，全学教養科目，開放科目などの履修は，学生の自律的な選択に大幅に委ねられており，事前情報がなければ，学生自らの選択権を生かすことができません。必修性の高い科目であっても，担当教員，授業のねらいと内容，成績評価の方法，教科書・参考書などを予め知ることにより，計画的に予習し，熱心に勉学に取り組むことが

できます。

現在，様々な分野で規制緩和が行われ，自由化が進められています。個々人や個別組織の創意工夫の余地を広げることによって皆さん一人一人が持てる力を最大限に発揮するようにしなければ，現代の高度に発達した文明は支えられないからです。このような時代・社会環境にあっては，一人一人が高い志をもち,適切に情報を収集し,自ら選び取って進むべき道を設計していかなければなりません。皆さんが名古屋大学において主体的，意欲的に学び，一人一人が様々な可能性を見い出し，才能を豊かに花開かせるとともに，現代社会が直面する諸問題に立ち向かい得る探究心と創造性を養い，高度な文明社会の担い手に育つことを心から願っています。

Ⅱ　教育目標

現代社会が高度化・複雑化し，国際化・情報化が急速に進み，変化のスピードが増して流動化が激しくなってきている今日，このような時代を積極的に生き，社会の要請に適切に対応し得る知的能力と意欲を備えた人材を養成する大学の責務は，ますます増大しています。

本学は，高度な専門性に裏付けられた高い能力と，総合的かつ自主的な判断力に支えられた豊かな人間性を有し，現代社会が直面する諸問題に主体的に立ち向かい得る探究心と創造性にあふれた，心身ともに健康な人材を育てることを目標としています。

本学は，この目標の実現に向けて全学的な研究と教育の一体化を図り，さらに次の諸点に力点を置いています。

(1)　四年一貫の系統的なカリキュラムの編成

全学教育，学部教育は，それぞれの教育理念と目的に従って，系統的な四年一貫教育（医学部医学科は六年一貫教育。）を全学的協力のもとに実施する。

(2)　総合的な判断力の養成

個別的授業科目の羅列ではなく，学際的視野や相互関連的知識を与え，現代社会が直面する基本的な課題群に総合的に対処し得る能力を養成する。

(3)　学生の主体性と学ぶ意欲の尊重

学生が自ら選んだ専攻に関連する科目を主体的に履修できるよう，科目の適正な学年配分を行うとともに，他学部が開講する科目や全学的に開講される科目を履修できる途を開く。

(4)　国際化への対応

基礎教育としての外国語教育を強化するとともに，外国語を通じて異文化理解を深め，21 世紀の国際社会に即応できる人材を養成する。

教養教育院では，次の教育目標を掲げ，実現するための教育課程を編成しています。

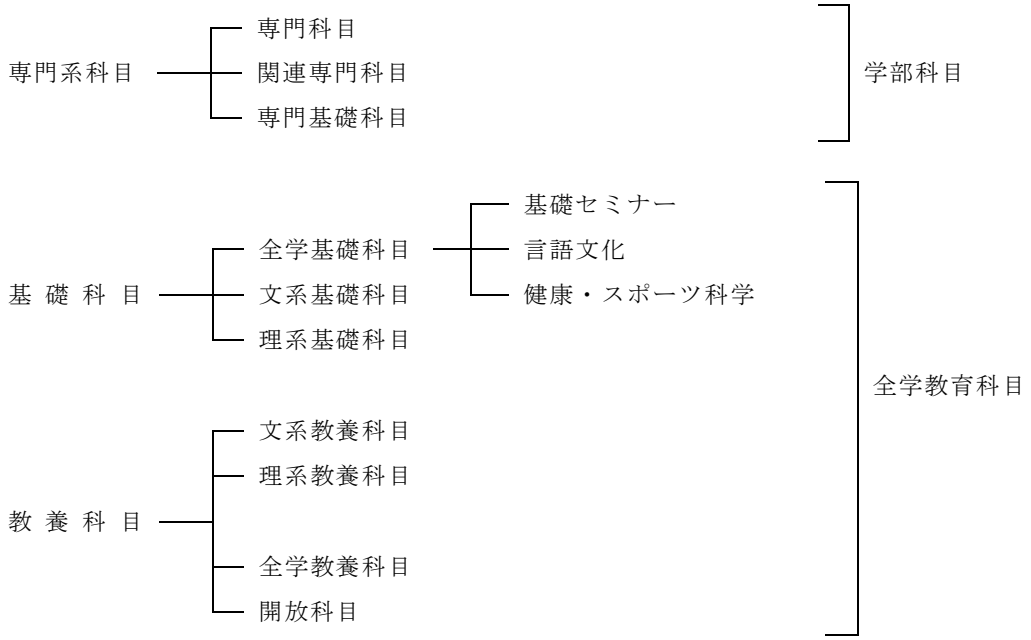
①総合的な判断力と思考力を培う	文系・理系・全学教養科目など
②学生の主体性と，学ぶ意欲を育む	基礎セミナー，開放科目など
③人間性を育むコミュニケーション能力を培う	健康・スポーツ科学，言語文化科目
④学部間に共通の基礎的学力を培い，探究心を養う	文系・理系基礎科目など

Ⅲ　全学教育科目の意義

全学教育とは，本学の総合大学としての利点を活かして，独創的で自立した豊かな個性を備えた知識人を育成するために，それに相応しい教育を全学的な責任体制で実施する新しい教育制度です。

そのために，あらゆる学問分野の基礎科目として，全学基礎科目（基礎セミナー，言語文化，健康・スポーツ科学），文系基礎科目，理系基礎科目を，自主的，総合的判断力を涵養する教養科目として，文系教養科目，理系教養科目，全学教養科目，開放科目を設定しています。

1. 科目区分



2. 科目区分とその内容

本学における全学教育科目は，全学教育の理念と目標の下に，基礎科目と教養科目に区分しています。これらの科目は，さらに，その分野，目的，対象学生等により，下位区分されています。

その科目区分及び内容は，次表のとおりです。

科目区分		内容
専門系科目	専門科目	各学部の学科，専攻の専門系科目のうちの最も中核的な科目（卒業論文または卒業研究を含む）
	関連専門科目	専門科目の周辺に位置する科目で，専門科目の教育効果をより高めるための科目
	専門基礎科目	専門科目，関連専門科目などを理解するのに必要な，専門に直結した基礎教育科目

科目区分			内容
基礎科目	全学基礎科目		初年次生を大学教育へ導入し，自立した学習能力を身につけるとともに，文・理に共通した基礎的学力や技能を養う科目
		基礎セミナー	多面的な知的トレーニングによって，コモンベーシックとしての読み，書き，話す能力のかん養を図るとともに，真理探究の方法と面白さを学ぶ科目
		言語文化	専門的学習のツールとしての外国語の能力を高め，異文化理解を深めて，国際社会に相応しい教養を育む科目
		健康・スポーツ科学	健康に関する自己管理能力，生涯スポーツの基礎となる技能の習得，スポーツを通したコミュニケーション能力やリーダーシップを育む科目
	文系基礎科目		人文・社会科学系分野の学問体系を認識するとともに，自主的判断能力を培う科目
	理系基礎科目		自然科学系分野の学問体系を認識するとともに，自主的判断能力を培う科目
教養科目	文系教養科目		人文・社会科学系分野の諸現象について，それらの諸現象を学際的，総合的に分析，把握する能力を育むとともに，他の学問分野との関連性について理解する科目
	理系教養科目		自然科学系分野の諸現象について，それらの諸現象を学際的，総合的に分析，把握する能力を育むとともに，他の学問分野との関連性について理解する科目
	全学教養科目		専門分野を問わず，豊かな人間性を育み，総合的判断能力をかん養する科目
	開放科目		学生の自主的で多様な学習意欲に応えるため，学部等が開講する専門系授業科目のうち，他学部の学生の受講が可能であり，かつ，有意義であると認めて全学に開放する科目

Ⅳ　本学の授業実施方法

1.　学年と学期

本学の学年は，4 月 1 日に始まり，翌年 3 月 31 日に終わります。この 1 年間を春学期（4 月 1 日から 9 月 30 日まで）と，秋学期（10 月 1 日から 3 月 31 日まで）とに分けた上で，さらに各学期の授業期間を 2 つに分け，前半を春 1 期・秋 1 期，後半を春 2 期・秋 2 期とし，セメスター（2 学期）に加え，クォーター（4 期）で授業が実施できるよう学期を設定しています。セメスターの授業については 15 週分，クォーターの授業については 8 週分の授業を行います。なお，全学教育科目は春 1 期・春 2 期，秋 1 期・秋 2 期を通してセメスターで授業を行います。本年度の授業日程は，本冊子の表紙裏面に示したとおりです。

各学部が開講する学部科目に関しては，それぞれの学部の事情により，一部異なる日程が組まれることもありますので，注意してください。

2.　期

大学における修業年限は，通常 4 年間（医学部医学科は 6 年間）ですので，この間に 8 つの学期（医学部医学科は 12 の学期）が含まれることになります。この学期を入学年度の春学期から，順次，通し番号を付けて次のように呼びます。

なお，期の順番を現す数字はローマ数字を使用します。

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	Ⅴ期	Ⅵ期	Ⅶ期	Ⅷ期

3.　休業日

授業を行わない日を休業日といいます。本学の定期的な休業日は，次のとおりです。ただし、休業日であっても，教育上必要がある場合には，授業を行うことがあります。

１日限りのもの	日曜日，土曜日，国民の祝日に関する法律に規定する休日
長期のもの	夏季休業，冬季休業

4.　授業時間

本学の授業時間は，通常 2 時間（実時間 90 分）連続して行われます。ただし，物理学実験，化学実験，生物学実験，地球科学実験などのように 3 時間（実時間 135 分）連続の授業もあります。

各授業の開始時刻・終了時刻は，次表のようになっており，その日の最初の授業から順次，通し番号を付けて次のように呼びます。この授業時間は，1 年間を通じ，また，全ての学部に共通して定められています。

なお，3 時間（実時間 135 分）連続の授業は，二つの時限にわたる授業です。

8:45～10:15	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00
第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限	第 5 時限

5.　授業科目と単位制度

授業科目は，開講科目とも，単に科目ともいうことがあります。この授業科目には，授業の形態により次の授業形式に分けられます。

また，大学では，学生の学修を数量的に表示するために単位制度が採られており，本学の教育課程を修了するためには，各学部で定められた履修基準に従って，所定の全学教育科目及び学部科目の単位を修得しなければなりません。

授業形式	内容	授業時間・単位数	科目区分
講　義	授業が，担当教員の講ずることを中心として進行する形態のものをいう。	2 時間×15 週 （実時間 90 分） 2.0 単位	健康・スポーツ科学講義 文系基礎科目 理系基礎科目 （実験を除く） 文系教養科目 理系教養科目 全学教養科目
演　習	授業が，受講人員の制限のもとで，学生の主体的な学修を中心として進行する形態のものをいう。	2 時間×15 週 （実時間 90 分） 1.0，1.5，2.0 単位 ※	基礎セミナー 言語文化
実　習	授業が，学生の実地または実物について学修，あるいは，学生の実技や技能についての修得などを中心として進行する形態のものをいう。	2 時間×15 週 （実時間 90 分） 1.0 単位	健康・スポーツ科学実習
実　験	授業が，実験で行われる形態のものをいう。	3 時間×15 週 （実時間 135 分） 1.5 単位	物理学実験 化学実験 生物学実験 地球科学実験

※どの授業科目がどの単位数になるかは「Ⅷ　各授業科目　1．授業科目表及び履修に関する注意事項」で確認してください。

6. 成績評価基準及びGPA制度　<u>※詳細は，2021年度名古屋大学学生便覧を参照してください。</u>

（1）成績評価

成績評価は，授業科目によって6段階評価（A+，A，B，C，C-，F）又は2段階評価（P，NP）のいずれかが用いられます。評価記号に対応する評価基準は次のとおりです。不合格の場合は単位を修得できません。

	評価記号等	合否等	評価基準等
6段階評価	A+	合格	際立って優れている。主題を全て理解し，広範な知識を持ち，概念や方法を巧みに使いこなして高度な課題を遂行できる。
	A		優れている。主題のほとんどを理解し，必要な知識を持ち，概念や方法を適切に使って課題を遂行できる。
	B		良好である。主題を十分理解し，問題・題材を扱うことができる。
	C		良好な面もあるが不足も目につく。主題の基本的な部分を理解し，比較的簡単な問題を扱うことができて，より高度な学修に進める状態になっている。
	C-		最低限の基準に達している。主題を最低限理解し，簡単な問題を扱うことはできるが，より高度な学修へと進むには更に努力が必要である。
	F	不合格	最低基準を満たしていない。
2段階評価	P	合格	合格（合否等により成績評価を行う授業科目）
	NP	不合格	不合格（合否等により成績評価を行う授業科目）
その他	T	合格	認定（入学前や他大学等で修得した単位）
	W	---	学生から履修継続の意思がないことが申し立てられたため又は様々な合理的理由（課題が提出されない，試験を受験しない等）から学生に履修継続の意思がないと教員が判断したため，成績評価を行わないことを示す。

授業科目によっては，100 点満点による評価を行った上で 6 段階評価に換算する場合があり，その場合の標準的な方法は次のとおりです。ただし，この換算表によらない場合がありますので，個々のシラバスを確認してください。

評価記号	A+	A	B	C	C-	F
100点満点評価	95点以上	80点以上 95点未満	70点以上 80点未満	65点以上 70点未満	60点以上 65点未満	60点 未満

2）GPA 制度

本学では，学生の自律的な学修の促進及び成績評価の国際通用性を高めるための方策の一環として，平成 23 年度以降入学者を対象とするカリキュラムが適用される学部学生に，グレード・ポイント・アベレージ（履修科目の成績の平均値。以下「GPA」という）制度を導入しています。

① GPA の種類及び算出方法

GPA は，当該学期における学修の状況及び成果を示す指標としての GPA（学期 GPA）及び在学中における全期間の学修の状況及び成果を示す指標としての GPA（累積 GPA）の 2 種類があり，計算式は次のとおりです。算出された数値に小数点以下第 2 位未満の端数があるときは，これを四捨五入します。

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{当該学期における A+の単位数}\times 4.3 + \text{A の単位数}\times 4.0 + \text{B の単位数}\times 3.0 + \text{C の単位数}\times 2.0 + \text{C-の単位数}\times 1.0}{\text{当該学期における A+の単位数} + \text{A の単位数} + \text{B の単位数} + \text{C の単位数} + \text{C-の単位数} + \text{F の単位数}}$$

$$\text{累積 GPA} = \frac{\text{在学中の全期間における A+の単位数}\times 4.3 + \text{A の単位数}\times 4.0 + \text{B の単位数}\times 3.0 + \text{C の単位数}\times 2.0 + \text{C-の単位数}\times 1.0}{\text{在学中の全期間における A+の単位数} + \text{A の単位数} + \text{B の単位数} + \text{C の単位数} + \text{C-の単位数} + \text{F の単位数}}$$

②GPA への算入・不算入

・卒業要件に関わる授業科目を算入します。
・随意科目及び教職科目等の卒業要件に関わらない授業科目は算入しません。
・P，NP，T 及び W をもって評価された授業科目は算入しません。
・再履修した授業科目の GPA の取扱い
　・F の評価を受けた授業科目を再度履修して A+，A，B，C 又は C-の評価を受けた場合には，F の評価は累積 GPA に算入しません。
　・F の評価を受けた授業科目を再度履修して F の評価を受けた場合には，F の評価は，累積 GPA に複数回算入しません。
　・F の評価を受けた後に，検定試験の成績による単位認定等により T の評価を受けた場合には，F の評価は累積 GPA に算入しません。
　・単位を修得した授業科目を再度履修して A+，A，B，C，C-又は F の評価を受けた場合には，再度履修した授業科目の評価は，GPA に算入しません。
　・以上の場合において，重複して履修することが認められている授業科目は，この限りではありません。

③ GPA の通知

GPA は各学期末の修得科目確認表に，学期 GPA 及び累積 GPA が記載されます。

7. 成績評価に関する問合せ

全学教育科目の成績評価に関して疑義が生じた場合は，書面をもって問い合わせることができます。成績が発表された日から原則３日以内（成績発表日を含む）に，教養教育院事務室へ「成績評価照会票」を提出してください。手続方法は，教養教育院ホームページに掲載しますので，NUCT から「成績評価照会票」を提出してください。

なお，受講した科目が表示されていない科目についても，直接教養教育院事務室へお問い合わせください。

＊専門系科目については，各学部教務学生係等の指示に従ってください。

8.　クラス編成

本学に入学した学生は，学修上の便宜から入学当初に，入学年次・所属学部等を考慮して，次のようなクラスに編成されます。なお，クラス番号は，各学部の履修ガイダンス日等に学生番号と併せて通知されます。

◇クラス編成表

学　　部	文：125				教育:65		法：150				経済：205					
学科等名																
クラス	1	2	3	4	1	2	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6
学生数	32	31	31	31	33	32	38	38	37	37	35	34	34	34	34	34

学　　部	情：135			理：270											
学科等名	自然:38	人社:38	コン:59												
クラス	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
学生数	38	38	59	23	23	23	23	23	23	22	22	22	22	22	22

学　　部	医：307							農：170						
学科等名	医:107	保健：200						環境:35		資生:55		生命：80		
クラス	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
学生数	54	53	40	40	40	40	40	18	17	28	27	27	27	26

学　　部	工：680																		
学科等名	化生：99			物工:83		マテ：110			電情：118				機航：150				エネ:40	土建:80	
クラス	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
学生数	33	33	33	42	41	37	37	36	30	30	29	29	38	38	37	37	40	40	40

〔注意〕(1)学部及び学科名等の後の数字は，学生の収容定員を示しています。
　　(2)情報学部，医学部，工学部及び農学部は，学科ごとにクラス編成をします。

【情報学部学科略称】自然：自然情報学科　人社：人間・社会情報学科　コン：コンピュータ科学科

【工学部学科略称】化生：化学生命工学科　物工：物理工学科　マテ：マテリアル工学科
電情：電気電子情報工学科　機航：機械・航空宇宙工学科
エネ：エネルギー理工学科　土建：環境土木・建築学科

【農学部学科略称】環境：生物環境科学科　資生：資源生物科学科　生命：応用生命科学科

Ⅴ　卒業・進級のために修得すべき授業科目 ・単位

大学における「修業年限」は 4 年（医学部医学科では 6 年）であり，学生は，通常，この修業年限のうちに卒業するために必要な単位（卒業要件単位）を修得し，卒業することになります。

また，学部によっては進級制度が採用されており，その場合には 1 年次から 2 年次，2 年次から 3 年次，あるいは 3 年次から 4 年次へと，上位の年次に進級するために必要な単位（進級要件単位）を修得していないと，留年しなければなりません。

なお，上記の「修業年限」とは別に，学生が大学に在学できる通算の年限を「在学年限」といいますが，本学が定める「在学年限」は休学期間を除き，医学部医学科以外の学部及び医学部保健学科については 8 年，医学部医学科については 12 年であり，いずれも「修業年限」の 2 倍の年数になっています。

卒業要件や進級要件など，4 年間（医学部医学科では 6 年間）にわたる教育課程は，それぞれの学部が，それぞれの教育方針に基づいて定めています。したがって，所属する学部の卒業要件及び進級制度の有無とそれがある場合の内容を十分確認し，間違いのないように各自履修計画を立てるようにしてください。

ここでは，各学部が定める卒業要件単位（進級要件単位）を一覧表で示します。

◎各学部の履修基準は，入学年度及び学科または履修コースにより異なることがありますので，必ず所属学部の「学生便覧」で確認してください。

(2021・2020 年度入学生用)

1. 文学部の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

科目区分			必要単位数	履修基準
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	
		基礎セミナーB	2	
	言語文化	英語	8	
		英語以外の外国語	10	次の外国語のうち一つの言語で 10 単位を修得すること。 ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学	講義	2	
		実習	2	
	文系基礎科目		8	
	理系基礎科目		4	文系学部対象となっている科目を修得すること。
	文系教養科目		4	
	理系教養科目		4	
	全学教養科目		2	
	開放科目		0	
	小計		48	
学部科目	専門科目		84	「専門基礎科目」2 単位を含む，合計 84 単位以上を修得すること。
	関連専門科目			
	専門基礎科目		2	
	小計		84	
合計			132	

(2)　進級要件単位数

進級判定年次	科目区分	必要単位数	進級できない者の取扱い等
2 年次終了時	基礎セミナー	4	① 2 年次に留める。 ② 2 年次までの在学年数は，通算 6 年までとする。 （在学年限(8 年)－ 3～4 年次の年数（2 年）） ③ 言語文化 2 単位の不足者に限り，仮進級を認める。 ④ ②の通算 6 年に達しても進級できない者については除籍する。
	言語文化	18	
	健康・スポーツ科学	4	
	文系基礎科目	10	
	理系基礎科目		
	文系教養科目	6	
	理系教養科目		
	全学教養科目		
	専門基礎科目	2	
	計	44	

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし，履修上の制限がありますので，77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので，99ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名，1単位
この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
「英語（基礎）」，「英語（中級）」，「英語（上級リーディング）1」及び「英語（上級リーディング）2」は原則として1クラス定員40名，各1単位
「英語（コミュニケーション）」，「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
① 卒業要件単位は8単位
「英語（基礎）」，「英語（中級）」の各1単位，「英語（コミュニケーション）」，「英語（上級）」の各2単位，「英語（上級リーディング）1」及び「英語（上級リーディング）2」の計2単位が必要
ただし，「英語（上級リーディング）1」及び「英語（上級リーディング）2」はどちらかを複数履修することによっても卒業要件単位となります。
② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
(2) 言語文化Ⅱ：
「特別英語セミナー（ライティング）」，「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」，「特別英語セミナー（リーディング）」，「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
（ただし，サバイバルに代替することはできません。）
受講については，英語検定試験の点数による受講制限があります。

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
（英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
① 卒業要件単位として，言語文化Ⅰで修得した言語と同一の言語4単位が必要です。
② 言語文化Ⅰで修得した言語と同一の言語の「初級【英語以外の外国語】」1，2は，卒業要件単位に含めることはできません。
③ 言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020 年度入学生用)

2. 教育学部の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

科目区分			必要単位数	履修基準
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	
		基礎セミナーB	2	
	言語文化	英語	8	
		英語以外の外国語	10	次の外国語のうち一つの言語で 10 単位を修得すること。 ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学	講義	2	
		実習	2	
	文系基礎科目		6	各科目区分の必要単位数を含め，22 単位以上を修得すること。 （注）理系基礎科目のうち必要単位に含めることができるのは，文系学部対象に開講される数学入門，物理学入門，化学入門，生物学入門，地球科学入門及び情報リテラシー（文系）である。
	理系基礎科目		2	
	文系教養科目		4	
	理系教養科目		2	
	全学教養科目			
	開放科目			
			22	
	小計		48	
学部科目	専門科目		66	
	関連専門科目			
	専門基礎科目		18	
	小計		84	
合計			132	

(2)　進級要件単位数

教育学部には、「進級制度」はありません。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
   ただし，履修上の制限がありますので，77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので，99ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
   「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名，1単位
   この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
   「英語（基礎）」，「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名，各1単位
   「英語（コミュニケーション）」，「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名，「英語（セミナー）」は原則として1クラス定員25名，各2単位
   ① 卒業要件単位は8単位
   「英語（基礎）」，「英語（中級）」の各1単位，「英語（コミュニケーション）」，「英語（上級）」，「英語（セミナー）」の各2単位が必要
   同一科目を複数履修することは出来ません。
   ② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
   (2) 言語文化Ⅱ：
   「特別英語セミナー（ライティング）」，「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」，「特別英語セミナー（リーディング）」，「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
   （ただし，サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
   （英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
   ① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
   ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
   ② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
   （注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
   (2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
   ① 卒業要件単位として，言語文化Ⅰで修得した言語と同一の言語4単位が必要です。
   ② 言語文化Ⅰで修得した言語と同一の言語の「初級【英語以外の外国語】」1，2は，卒業要件単位に含めることはできません。
   ③ 言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
   指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
   概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020 年度入学生用)

3. 法学部の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

<table>
<tr><th colspan="3">科　目　区　分</th><th colspan="2">必要単位数</th><th>履　修　基　準</th></tr>
<tr><td rowspan="8">全学教育科目</td><td rowspan="2">言語文化</td><td>英　　語</td><td>8</td><td rowspan="8">36</td><td rowspan="2">【一般学生】
英語 8 単位以上及び英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）10 単位以上を含む合計 18 単位以上を修得すること。ただし，必要単位に含めることができるのは合計 20 単位までである。
（注）表下の〔言語文化の修得方法例〕により修得すること。
【外国人留学生】
日本語 10 単位以上及びその他の外国語（英語を含む）8 単位以上を含む合計 18 単位以上を修得すること。ただし，必要単位に含めることができるのは合計 20 単位までである。</td></tr>
<tr><td>英語以外の外国語</td><td>10</td></tr>
<tr><td rowspan="2">健康・スポーツ科学</td><td>講　　義</td><td rowspan="5">16～18</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>実　　習</td></tr>
<tr><td colspan="2">理系基礎科目</td><td rowspan="4">（注）理系基礎科目のうち必要単位に含めることができるのは，文系学部対象に開講される数学入門，物理学入門，化学入門，生物学入門，地球科学入門及び情報リテラシー（文系）である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">文系教養科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">理系教養科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">全学教養科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">開放科目</td></tr>
<tr><td rowspan="3">基礎セミナー</td><td>基礎セミナーA</td><td>2</td><td rowspan="6">96</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>基礎セミナーB</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2">文系基礎科目</td><td>8～10</td><td>（注）日本国憲法，法学，政治学は必要単位に含めることができないので注意すること。
また，文系基礎科目で必要単位に含めることができるのは合計 10 単位までである。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">学部科目</td><td colspan="2">専門科目</td><td rowspan="2">82～84</td><td rowspan="3">（注）関連専門科目で必要単位に含めることができるのは合計 20 単位までである。</td></tr>
<tr><td colspan="2">関連専門科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門基礎科目</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">合　　計</td><td colspan="2">132</td><td></td></tr>
</table>

〔言語文化の修得方法例〕

1）言語文化で 18 単位を修得する場合
　①英語 8 単位＋英語以外の一つの言語 10 単位
　②英語 8 単位＋英語以外の一つの言語 6 単位＋他の英語以外の一つの言語 4 単位

2）言語文化で 20 単位を修得する場合
　①英語 10 単位＋英語以外の一つの言語 10 単位
　（注）英語 10 単位の修得方法は言語文化Ⅰ8 単位、言語文化Ⅱ2 単位。
　　なお、英語検定試験によって認定される単位は言語文化Ⅰに算入される。
　②英語 8 単位＋英語以外の一つの言語 10 単位＋他の英語以外の一つの言語 2 単位
　③英語 8 単位＋英語以外の一つの言語 6 単位＋他の英語以外の一つの言語 6 単位

(2)　進級要件単位数
法学部には，「進級制度」はありません。

(3)　履修単位の上限
履修登録にあたっては，登録する授業科目の単位数の合計は，いずれの学期においても 24 単位を超えてはならない。なお，単位数を合計する際には，法政実習，集中講義科目，卒業論文および教職科目は除く。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
   ただし，履修上の制限がありますので，77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので，99ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
   「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名，1単位
   この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
   この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
   「英語（基礎）」，「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名，各1単位
   「英語（コミュニケーション）」，「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名，「英語（セミナー）」は原則として1クラス定員25名，各2単位
   ① 卒業要件単位は8単位
   「英語（基礎）」，「英語（中級）」の各1単位，「英語（コミュニケーション）」，「英語（上級）」，「英語（セミナー）」の各2単位が必要
   同一科目を複数履修することはできません。
   ② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
   （注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は8単位までです。
   (2) 言語文化Ⅱ：
   「特別英語セミナー（ライティング）」，「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」，「特別英語セミナー（リーディング）」，「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
   （ただし，サバイバルに代替することはできません。）
2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
   （英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
   ① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
   ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
   ② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
   （注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は各言語について6単位までです。
   (2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
   ① 言語文化Ⅰで修得した言語と同一の言語の「初級【英語以外の外国語】」1，2は，卒業要件単位に含めることはできません。
   ② 言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。
   （注）卒業要件単位数として認められる【英語以外の外国語】は2種類までです。前ページ［言語文化の修得方法例］を参照すること。
3. 言語文化Ⅲ
   言語文化Ⅲの科目は言語文化の卒業要件単位に含めることはできません。
   全学教育科目の必要単位数「36」の中に含めることができます。
4. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
   指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
   概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

（2021・2020 年度入学生用）

4. 経済学部の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

<table>
<tr><th colspan="3">科　目　区　分</th><th>必要単位数</th><th>履　修　基　準</th></tr>
<tr><td rowspan="15">全学教育科目</td><td rowspan="2">基礎セミナー</td><td>基礎セミナーA</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>基礎セミナーB</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">言語文化</td><td>英　　語</td><td>8</td><td rowspan="2">【一般学生】
英語 8 単位以上及び英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）のうち一つの言語で 10 単位以上を修得すること。
【外国人留学生】
日本語 10 単位以上及びその他の外国語（英語を含む）のうち一つの言語（母国語以外の言語）で 8 単位以上を修得すること。</td></tr>
<tr><td>英語以外の外国語</td><td>10</td></tr>
<tr><td rowspan="2">健康・スポーツ科学</td><td>講　　義</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>実　　習</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">文系基礎科目</td><td>8</td><td rowspan="7">（注）理系基礎科目のうち必要単位に含めることができるのは，文系学部対象に開講される数学入門，物理学入門，化学入門，生物学入門，地球科学入門及び情報リテラシー（文系）である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">文系教養科目</td><td>4</td></tr>
<tr><td colspan="2">理系基礎科目</td><td rowspan="2">8</td></tr>
<tr><td colspan="2">理系教養科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">全学教養科目</td><td rowspan="2">2</td></tr>
<tr><td colspan="2">開放科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">小　　計</td><td>48</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">学部科目</td><td colspan="2">専門科目</td><td>32～</td><td rowspan="2">56</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">関連専門科目</td><td>0～</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">専門基礎科目</td><td>28</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">小　　計</td><td>84</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">合　　計</td><td>132</td><td></td></tr>
</table>

(2)　進級要件単位数

専門科目（必修）の「卒論研究」を履修するためには，卒論研究に入る学年の始めの時点で，全学教育科目の卒業要件単位 48 単位のうちから 32 単位以上，専門系科目のうちから演習Ⅰ，演習Ⅱ各 2 単位を含めて 56 単位以上，計 88 単位以上を修得していなければなりません。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし，履修上の制限がありますので，77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので，99ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名，1単位
この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
「英語（基礎）」，「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名，各1単位
「英語（コミュニケーション）」，「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名，「英語（セミナー）」は原則として1クラス定員25名，各2単位
① 卒業要件単位は8単位
「英語（基礎）」，「英語（中級）」の各1単位，「英語(コミュニケーション)」，「英語（上級）」，「英語（セミナー）」の各2単位が必要
同一科目を複数履修することはできません。
② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
(2) 言語文化Ⅱ：
「特別英語セミナー（ライティング）」，「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」，「特別英語セミナー（リーディング）」，「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
（ただし，サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
（英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
① 卒業要件単位として，言語文化Ⅰで修得した言語と同一の言語4単位が必要です。
② 言語文化Ⅰで修得した言語と同一の言語の「初級【英語以外の外国語】」1，2は，卒業要件単位に含めることはできません。
③ 言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020 年度入学生用)

5. 情報学部：自然情報学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

科目区分			必要単位数	履修基準
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA 基礎セミナーB	2	
	言語文化	英語	6	
		英語以外の外国語	6	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学	講義 実習	2	
	理系基礎科目		18	① 理系基礎科目のうち，微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，計8単位を修得すること。 ② 「物理学基礎Ⅰ・Ⅱ，物理学実験」，「化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験」，「生物学基礎Ⅰ・Ⅱ，生物学実験」，「地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ，地球科学実験」のうちから1組3科目，計5.5単位を修得すること。 ③ 上記②のうち，取得した組み合わせ以外の同一科目「基礎Ⅰ・Ⅱ」を1組とし，1組2科目，計4単位以上を修得すること。
	文系基礎科目		6	
	文系教養科目			
	理系教養科目		2	
	全学教養科目		2	
	開放科目			
	小計		44	
学部科目	専門科目		40～50	学部科目の詳細は，情報学部学生便覧で確認すること。
	関連専門科目		2～10	84
	専門基礎科目		30～34	
	小計		84	
合計			128	

(2)　進級要件単位数

情報学部には，「進級制度」はありません。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を２個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち１個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
   ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
   「英語（サバイバル)」は原則として1クラス定員40名，1単位
   この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
   この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」は原則として1クラス定員40名，各1単位
   「英語（コミュニケーション)」,「英語（上級)」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   ① 卒業要件単位は6単位
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」の各1単位,「英語(コミュニケーション)」,「英語（上級)」の各2単位が必要
   同一科目を複数履修することはできません。
   ② 「英語（サバイバル)」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
   (2) 言語文化Ⅱ：
   「特別英語セミナー（ライティング)」,「特別英語セミナー（プレゼンテーション)」,「特別英語セミナー（リーディング)」,「特別英語セミナー（資格試験英語)」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
   （ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
   （英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
   ① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
   ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
   ② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
   (注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
   (2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
   ① 言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
   指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
   概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020 年度入学生用)

6. 情報学部：人間・社会情報学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

科目区分			必要単位数		履修基準
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	*44	
		基礎セミナーB	2		
	言語文化	英語	6		
		英語以外の外国語	10		次の外国語のうち一つの言語で 10 単位を修得すること。 ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学	講義	2		
		実習			
	文系基礎科目		12		
	文系教養科目				
	理系基礎科目		2		理系基礎科目のうち，微分積分学Ⅰ又は線形代数学Ⅰを 2 単位以上修得すること。
	理系教養科目		2		
	全学教養科目		2		
	開放科目				*各科目区分の必要単位数の合計とは一致しないので注意すること。
	小計		44		(各科目区分の最低修得単位数を含め，「全学教育科目」のうちから 44 単位以上の修得が必要)
学部科目	専門科目		40～50	84	学部科目の詳細は，情報学部学生便覧で確認すること。
	関連専門科目		2～10		
	専門基礎科目		30～34		
	小計		84		
合計			128		

(2)　進級要件単位数

情報学部には，「進級制度」はありません。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
   ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
   「英語（サバイバル)」は原則として1クラス定員40名，1単位
   この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
   この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」は原則として1クラス定員40名，各1単位
   「英語（コミュニケーション)」,「英語（上級)」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   ① 卒業要件単位は6単位
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」の各1単位,「英語(コミュニケーション)」,「英語（上級)」の各2単位が必要
   同一科目を複数履修することはできません。
   ② 「英語（サバイバル)」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
   (2) 言語文化Ⅱ：
   「特別英語セミナー（ライティング)」,「特別英語セミナー（プレゼンテーション)」,「特別英語セミナー（リーディング)」,「特別英語セミナー（資格試験英語)」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
   （ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
   （英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
   ① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
   ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
   ② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
   (注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
   (2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
   ① 卒業要件単位として，言語文化Ⅰと同一の言語4単位が必要です。
   ② 言語文化Ⅰで修得した言語と同一の言語の「初級【英語以外の外国語】」1，2は，卒業要件単位に含めることはできません。
   ③ 言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
   指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
   概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

（2021・2020 年度入学生用）

7. 情報学部：コンピュータ科学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

科目区分			必要単位数		履修基準
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA 基礎セミナーB	2	*44	
	言語文化	英語	6		
		英語以外の外国語	6		次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学	講義 実習	2		
	理系基礎科目		17		理系基礎科目のうち，微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，物理学基礎Ⅰ・Ⅱ，物理学実験の計 13.5 単位を修得すること。
	文系基礎科目		6		
	文系教養科目				
	理系教養科目		2		
	全学教養科目		2		
	開放科目				*各科目区分の必要単位数の合計とは一致しないので注意すること。
	小計		44		(各科目区分の最低修得単位数を含め，「全学教育科目」のうちから 44 単位以上の修得が必要)
学部科目	専門科目		42～50	84	学部科目の詳細は，情報学部学生便覧で確認すること。
	関連専門科目		2～10		
	専門基礎科目		30～34		
	小計		84		
合計			128		

(2)　進級要件単位数

情報学部には，「進級制度」はありません。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
   ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
   「英語（サバイバル)」は原則として1クラス定員40名，1単位
   この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
   この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」は原則として1クラス定員40名，各1単位
   「英語（コミュニケーション)」,「英語（上級)」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   ① 卒業要件単位は6単位
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」の各1単位,「英語(コミュニケーション)」,「英語（上級)」の各2単位が必要
   同一科目を複数履修することはできません。
   ② 「英語（サバイバル)」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
   (2) 言語文化Ⅱ：
   「特別英語セミナー（ライティング)」,「特別英語セミナー（プレゼンテーション)」,「特別英語セミナー（リーディング)」,「特別英語セミナー（資格試験英語)」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
   （ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
   （英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
   ① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
   ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
   ② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
   (注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
   (2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
   ① 言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
   指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
   概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020 年度入学生用)

8. 理学部：数理学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

科目区分			必要単位数	履修基準
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA 基礎セミナーB	2	
	言語文化	英語	6	
		英語以外の外国語	6	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学	講義	2	
		実習	2	
	文系基礎科目		6	
	文系教養科目			
	理系基礎科目		14	「理系基礎科目」のうち，微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論の合計10単位を修得すること。 また，電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学基礎Ⅰ・Ⅱ，物理学実験，化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験，生物学基礎Ⅰ・Ⅱ，生物学実験，地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ，地球科学実験のうちから合計4単位以上を修得すること。
	理系教養科目	2	4	「理系教養科目」2単位を含む，合計4単位以上を修得する。
	全学教養科目			
	開放科目		0	
	小計		42	
学部科目	専門科目		80～72	
	関連専門科目		0	
	専門基礎科目		16～24	
	小計		96	
合計			138	

(2)　進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱等
1年次終了時	1年次終了時において，20単位以上修得していること。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は，通算5年までとする。 （在学年限（8年）－ 2～4年次の年数（3年）） ③ ②の通算5年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
   ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
   「英語（サバイバル)」は原則として1クラス定員40名，1単位
   この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
   この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」は原則として1クラス定員40名，各1単位
   「英語（コミュニケーション)」,「英語（上級)」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   ① 卒業要件単位は6単位
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」の各1単位,「英語(コミュニケーション)」,「英語（上級)」の各2単位が必要
   同一科目を複数履修することはできません。
   ② 「英語（サバイバル)」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
   (2) 言語文化Ⅱ：
   「特別英語セミナー（ライティング)」,「特別英語セミナー（プレゼンテーション)」,「特別英語セミナー（リーディング)」,「特別英語セミナー（資格試験英語)」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
   （ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
   （英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
   ① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
   ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
   ② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
   (注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
   (2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
   言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
   指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
   概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020 年度入学生用)

9. 理学部：物理学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

科目区分			必要単位数	履修基準
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA 基礎セミナーB	2	
	言語文化	英語	6	
		英語以外の外国語	6	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学	講義	2	
		実習	2	
	文系基礎科目 文系教養科目		6	
	理系基礎科目		21.5	「理系基礎科目」のうち，物理学基礎Ⅰ，電磁気学Ⅰ・Ⅱの合計6単位を修得すること。 また，微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論，物理学実験，化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験，生物学基礎Ⅰ・Ⅱ，生物学実験，地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ，地球科学実験のうちから合計 15.5 単位以上を修得すること。ただし，微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論のうちから合計6単位以上を修得すること。
	理系教養科目	2	4	「理系教養科目」2単位を含む，合計4単位以上を修得する。
	全学教養科目			
	開放科目		0	
	小計		49.5	
学部科目	専門科目		64～55	
	関連専門科目		0	
	専門基礎科目		19～28	
	小計		83	
合計			132.5	

(2)　進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱等
1年次終了時	1年次終了時において，20単位以上修得していること。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は，通算5年までとする。 （在学年限（8年）－ 2～4年次の年数（3年）） ③ ②の通算5年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
   ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
   特に，物理学基礎Ⅰは，開講対象学部が理学部向けの科目のみ卒業要件単位として認められます。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
   「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名，1単位
   この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
   この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
   「英語（基礎）」，「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名，各1単位
   「英語（コミュニケーション）」，「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   ① 卒業要件単位は6単位
   「英語（基礎）」，「英語（中級）」の各1単位，「英語(コミュニケーション)」，「英語（上級）」の各2単位が必要
   同一科目を複数履修することはできません。
   ② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
   (2) 言語文化Ⅱ：
   「特別英語セミナー（ライティング）」，「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」，「特別英語セミナー（リーディング）」，「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
   （ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
   （英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
   ① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
   ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
   ② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
   (注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
   (2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
   言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
   指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
   概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

（2021・2020 年度入学生用）

10. 理学部：化学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

科目区分			必要単位数	履修基準
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA 基礎セミナーB	2	
	言語文化	英語	6	
		英語以外の外国語	6	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学	講義	2	
		実習	2	
	文系基礎科目 文系教養科目		6	
	理系基礎科目		19.5	「理系基礎科目」のうち，微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論のうちから合計8単位以上を修得すること。 また，電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学基礎Ⅰ・Ⅱ，物理学実験，化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験，生物学基礎Ⅰ・Ⅱ，生物学実験，地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ，地球科学実験のうちから合計11.5単位以上を修得すること。
	理系教養科目 全学教養科目		2 4	「理系教養科目」2単位を含む，合計4単位以上を修得する。
	開放科目		0	
	小計		47.5	
学部科目	専門科目		50～47	
	関連専門科目		0	
	専門基礎科目		34～37	
	小計		84	
合計			131.5	

(2)　進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱等
1年次終了時	1年次終了時において，20単位以上修得していること。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は，通算5年までとする。 （在学年限（8年）－ 2～4年次の年数（3年）） ③ ②の通算5年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
   ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
   「英語（サバイバル)」は原則として1クラス定員40名，1単位
   この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
   この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」は原則として1クラス定員40名，各1単位
   「英語（コミュニケーション)」,「英語（上級)」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   ① 卒業要件単位は6単位
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」の各1単位,「英語(コミュニケーション)」,「英語（上級)」の各2単位が必要
   同一科目を複数履修することはできません。
   ② 「英語（サバイバル)」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
   (2) 言語文化Ⅱ：
   「特別英語セミナー（ライティング)」,「特別英語セミナー（プレゼンテーション)」,「特別英語セミナー（リーディング)」,「特別英語セミナー（資格試験英語)」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
   （ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
   （英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
   ① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
   ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
   ② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
   (注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
   (2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
   言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
   指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
   概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020 年度入学生用)

11. 理学部：生命理学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

科目区分			必要単位数	履修基準
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA 基礎セミナーB	2	
	言語文化	英語	6	
		英語以外の外国語	6	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学	講義	2	
		実習	2	
	文系基礎科目 文系教養科目		6	
	理系基礎科目		16.5	「理系基礎科目」のうち，微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論，電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学基礎Ⅰ・Ⅱ，物理学実験，化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験，生物学基礎Ⅰ・Ⅱ，生物学実験，地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ，地球科学実験のうちから合計16.5単位以上を修得すること。
	理系教養科目 全学教養科目		2 4	「理系教養科目」2単位を含む，合計4単位以上を修得する。
	開放科目		0	
	小計		44.5	
学部科目	専門科目		68～64	
	関連専門科目		0	
	専門基礎科目		20～24	
	小計		88	
合計			132.5	

(2)　進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱等
1年次終了時	1年次終了時において，20単位以上修得していること。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は，通算5年までとする。 (在学年限（8年）－ 2～4年次の年数（3年)) ③ ②の通算5年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
   ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
   「英語（サバイバル)」は原則として1クラス定員40名，1単位
   この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
   この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」は原則として1クラス定員40名，各1単位
   「英語（コミュニケーション)」,「英語（上級)」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   ① 卒業要件単位は6単位
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」の各1単位,「英語(コミュニケーション)」,「英語（上級)」の各2単位が必要
   同一科目を複数履修することはできません。
   ② 「英語（サバイバル)」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
   (2) 言語文化Ⅱ：
   「特別英語セミナー（ライティング)」,「特別英語セミナー（プレゼンテーション)」,「特別英語セミナー（リーディング)」,「特別英語セミナー（資格試験英語)」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
   （ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
   （英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
   ① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
   ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
   ② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
   (注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
   (2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
   言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
   指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
   概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020 年度入学生用)

12. 理学部：地球惑星科学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

科目区分			必要単位数	履修基準
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA 基礎セミナーB	2	
	言語文化	英語	6	
		英語以外の外国語	6	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学	講義	2	
		実習	2	
	文系基礎科目 文系教養科目		6	
	理系基礎科目		17	「理系基礎科目」のうち，微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論，電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学基礎Ⅰ・Ⅱ，物理学実験，化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験，生物学基礎Ⅰ・Ⅱ，生物学実験，地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ，地球科学実験のうちから合計17単位以上を修得すること。
	理系教養科目		2	「理系教養科目」2単位を含む，合計4単位以上を修得する。
	全学教養科目		4	
	開放科目		0	
	小計		45	
学部科目	専門科目		68～45	
	関連専門科目		0	
	専門基礎科目		20～43	
	小計		88	
合計			133	

(2)　進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱等
1年次終了時	1年次終了時において，20単位以上修得していること。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は，通算5年までとする。 (在学年限（8年）－ 2～4年次の年数（3年)） ③ ②の通算5年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
   ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
   「英語（サバイバル)」は原則として1クラス定員40名，1単位
   この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
   この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」は原則として1クラス定員40名，各1単位
   「英語（コミュニケーション)」,「英語（上級)」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   ① 卒業要件単位は6単位
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」の各1単位,「英語(コミュニケーション)」,「英語（上級)」の各2単位が必要
   同一科目を複数履修することはできません。
   ② 「英語（サバイバル)」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
   (2) 言語文化Ⅱ：
   「特別英語セミナー（ライティング)」,「特別英語セミナー（プレゼンテーション)」,「特別英語セミナー（リーディング)」,「特別英語セミナー（資格試験英語)」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
   （ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
   （英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
   ① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
   ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
   ② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
   (注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
   (2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
   言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
   指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
   概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

（2021・2020 年度入学生用）

13. 医学部：医学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

科目区分			必要単位数	履修基準
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	
		基礎セミナーB	2	
	言語文化	英語	8	
		英語以外の外国語	6	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学	講義	2	
		実習	2	
	理系基礎科目		17	「理系基礎科目」のうち， ① 数学通論Ⅰ・Ⅱの合計4単位 ② 物理学基礎Ⅰ・Ⅱのうちから2単位以上 ③ 化学基礎Ⅰ・Ⅱのうちから2単位以上 ④ 生物学基礎Ⅰ・Ⅱの合計4単位 ⑤ 物理学実験及び化学実験のうちから 1.5 単位以上を含め，合計17単位以上を修得すること。
	文系基礎科目		2	12	各科目区分の最低修得単位数を含め，12単位以上を修得すること。 ただし，「開放科目」で認められる卒業要件単位数は2単位までです。
	文系教養科目		2	
	理系教養科目		2	
	全学教養科目		2	
	開放科目			
	小計		51	
学部科目	専門科目		162	
	関連専門科目		0	
	専門基礎科目		0	
	小計		162	
合計			213	

(2)　進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱等
2年次終了時	2年次終了時において，『全学教育科目』51単位以上を修得し，『専門科目』のうち，医学入門，人体器官の構造並びに生体の機能及び生物の化学の2年次開講分について履修認定を受けること。	① 2年次に留める。 ② 2年次の在学年数は，通算8年までとする。 （在学年限（12年）－3～6年次の年数（4年）） ③ ②の通算8年に達しても進級できない者については除籍する。
3年次終了時	3年次終了時において，『全学教育科目』51単位以上，『専門科目』において，所定の科目51.5単位以上，合計102.5単位以上を修得していること。 ただし，所定の科目のうち1科目の不足者に限っては，進級を認めるものとするが，この場合，全ての科目において履修認定を受けていることを必要とする。	① 3年次に留める。 ② 3年次の在学年数は，通算9年までとする。 （在学年限（12年）－4～6年次の年数（3年）） ③ ②の通算9年に達しても進級できない者については除籍する。
4年次終了時	4年次終了時において，4年次に開講されている全科目について履修の認定を受けて，さらにその科目のうち，PBLチュートリアル及び臨床医学総論の単位を修得していること。 なお，1科目の不足により4年次へ進級した者は，上記条件に加え，不足していた1科目の単位を修得していることを必要とする。	① 4年次に留める。 ② 4年次の在学年数は，通算10年までとする。 （在学年限（12年）－5～6年次の年数（2年）） ③ ②の通算10年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
   ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
   特に「数学通論Ⅰ・Ⅱ」と「生物学基礎Ⅰ・Ⅱ」は，開講対象学部が医学部医学科向けの科目のみ卒業要件単位として認められます。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
   「英語（サバイバル)」は原則として1クラス定員40名，1単位
   この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
   この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」は原則として1クラス定員40名，各1単位
   「英語（コミュニケーション)」,「英語（上級)」は原則として1クラス定員20名,「英語（セミナー)」は原則として1クラス定員25名，各2単位
   ① 卒業要件単位は8単位
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」の各1単位,「英語(コミュニケーション)」,「英語（上級)」,「英語（セミナー)」の各2単位が必要
   同一科目を複数履修することはできません。
   ② 「英語（サバイバル)」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
   (2) 言語文化Ⅱ：
   「特別英語セミナー（ライティング)」,「特別英語セミナー（プレゼンテーション)」,「特別英語セミナー（リーディング)」,「特別英語セミナー（資格試験英語)」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
   （ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
   （英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
   ① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
   ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
   ② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
   (注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
   (2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
   言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
   指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
   概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

（2021・2020 年度入学生用）

14. 医学部：保健学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

科目区分			必要単位数	履修基準
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA 基礎セミナーB	2	
	言語文化	英語	4	
		英語以外の外国語	6	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学	講義	2	
		実習	2	
	理系基礎科目		9	「理系基礎科目」のうち，数学通論Ⅰ・Ⅱ，物理学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学基礎Ⅰ・Ⅱ，生物学基礎Ⅰ・Ⅱ，生物学実験のうちから9単位以上を修得すること。
	文系基礎科目		6	8	「文系基礎科目」，「文系教養科目」及び「理系教養科目」のうちから 6 単位を含め，合計 8 単位以上を修得すること。 ただし，「全学教養科目」及び「開放科目」で必要単位に含めることができるのは，合計2単位までです。
	文系教養科目			
	理系教養科目			
	全学教養科目			
	開放科目			
	小計		33	

		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻
学部科目	専門科目	67	61	66～70	70	71
	関連専門科目	0	0	0	0	0
	専門基礎科目	24	33	21～25	21	22
	小計	91	94	91	91	93

合計	124	127	124	124	126

(2)　進級要件単位数

医学部保健学科には，「進級制度」はありません。

ただし，3年次秋学期以降または4年次春学期以降の臨床（臨地）実習等を履修するためには，各専攻が定める履修条件を満たしていなければなりません。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので，99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名，1単位
この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
「英語（基礎）」，「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名，各1単位
「英語（コミュニケーション）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
① 卒業要件単位は4単位
「英語（基礎）」，「英語（中級）」の各1単位，「英語(コミュニケーション)」の2単位が必要
同一科目を複数履修することはできません。
② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
(2) 言語文化Ⅱ：
「特別英語セミナー（ライティング）」，「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」，「特別英語セミナー（リーディング）」，「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
（英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
(注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020 年度入学生用)

15. 工学部：化学生命工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

科目区分			必要単位数		履修基準
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA 基礎セミナーB	2	47	
	言語文化	英語	6		
		英語以外の外国語	6		次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学	講義 実習	2		
	文系基礎科目 文系教養科目		4		
	理系基礎科目		21		数　学：微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論のうちから合計8単位以上を修得すること。 物理学：力学Ⅰ・Ⅱ，電磁気学Ⅰ，物理学実験の合計7.5単位を修得すること。 化　学：化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験の合計5.5単位を修得すること。
	理系教養科目		4		
	全学教養科目 開放科目		2		
	小計		47		
学部科目	専門科目		38		
	関連専門科目		3		
	専門基礎科目		48		
	小計		89		
合計			136		

(2)　進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	理系基礎科目を5科目以上修得していること。	①　1年次に留める。 ②　1年次の在学年数は，通算5年までとする。 （在学年限（8年）－2～4年次の年数（3年）） ③　②の通算5年に達しても進級できないものについては除籍する。
2年次終了時	①　「言語文化」として英語6単位以上及び英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語（外国人留学生は日本語でもよい））のうちから1外国語4.5単位以上を含む10.5単位以上，または，英語5単位以上及び上記英語以外の1外国語6単位以上を含む11単位以上を修得していること。 ②　理系基礎科目は，物理学実験1.5単位を含む17.5単位以上を修得していること。 ③　①及び②を含め，全学教育科目で41単位以上修得していること。	①　2年次に留める。 ②　2年次までの在学年数は，通算6年までとする。 （在学年限（8年）－3～4年次の年数（2年）） ③　②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名，1単位
この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
「英語（基礎）」，「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名，各1単位
「英語（コミュニケーション）」，「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
① 卒業要件単位は6単位
「英語（基礎）」，「英語（中級）」の各1単位，「英語(コミュニケーション)」，「英語（上級）」の各2単位が必要
同一科目を複数履修することはできません。
② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
(2) 言語文化Ⅱ：
「特別英語セミナー（ライティング）」，「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」，「特別英語セミナー（リーディング）」，「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
（英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
(注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020 年度入学生用)

16. 工学部：物理工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

科目区分			必要単位数		履修基準
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA 基礎セミナーB	2	49	
	言語文化	英語	6		
		英語以外の外国語	6		次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学	講義 実習	2		
	文系基礎科目 文系教養科目		4		
	理系基礎科目		23		数　学：微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論のうちから合計8単位以上を修得すること。 物理学：力学Ⅰ・Ⅱ，電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学実験の合計9.5単位を修得すること。 化　学：化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験の合計5.5単位を修得すること。
	理系教養科目		4		
	全学教養科目 開放科目		2		
	小計		49		
学部科目	専門科目		49		
	関連専門科目		4		
	専門基礎科目		31		
	小計		84		
合計			133		

(2)　進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	理系基礎科目を5科目以上修得していること。	①　1年次に留める。 ②　1年次の在学年数は，通算5年までとする。 （在学年限（8年）－2～4年次の年数（3年）） ③　②の通算5年に達しても進級できないものについては除籍する。
2年次終了時	①　「言語文化」として英語6単位以上及び英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語（外国人留学生は日本語でもよい））のうちから1外国語4.5単位以上を含む10.5単位以上，または，英語5単位以上及び上記英語以外の1外国語6単位以上を含む11単位以上を修得していること。 ②　理系基礎科目は，物理学実験1.5単位を含む17.5単位以上を修得していること。 ③　①及び②を含め，全学教育科目で41単位以上修得していること。	①　2年次に留める。 ②　2年次までの在学年数は，通算6年までとする。 （在学年限（8年）－3～4年次の年数（2年）） ③　②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名，1単位
この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
「英語（基礎）」，「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名，各1単位
「英語（コミュニケーション）」，「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
① 卒業要件単位は6単位
「英語（基礎）」，「英語（中級）」の各1単位，「英語(コミュニケーション)」，「英語（上級）」の各2単位が必要
同一科目を複数履修することはできません。
② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
(2) 言語文化Ⅱ：
「特別英語セミナー（ライティング）」，「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」，「特別英語セミナー（リーディング）」，「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
（英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
(注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020 年度入学生用)

17. 工学部：マテリアル工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

<table>
<tr><th colspan="3">科　目　区　分</th><th>必要単位数</th><th>履　修　基　準</th></tr>
<tr><td rowspan="10">全学教育科目</td><td rowspan="2">基礎セミナー</td><td>基礎セミナーA</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="10">49</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>基礎セミナーB</td></tr>
<tr><td rowspan="2">言語文化</td><td>英　　語</td><td>6</td><td></td></tr>
<tr><td>英語以外の外国語</td><td>6</td><td>次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。
ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語
※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">健康・スポーツ科学</td><td>講　　義</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>実　　習</td></tr>
<tr><td>文　系　基　礎　科　目</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>文　系　教　養　科　目</td></tr>
<tr><td>理　系　基　礎　科　目</td><td>23</td><td>数　学：微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論のうちから合計8単位以上を修得すること。
物理学：力学Ⅰ・Ⅱ，電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学実験の合計9.5単位を修得すること。
化　学：化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験の合計5.5単位を修得すること。</td></tr>
<tr><td>理　系　教　養　科　目</td><td>4</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>全　学　教　養　科　目
開　放　科　目</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2">小　　計</td><td>49</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">学部科目</td><td colspan="2">専　門　科　目</td><td>41</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">関　連　専　門　科　目</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">専　門　基　礎　科　目</td><td>43</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">小　　計</td><td>85</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">合　　計</td><td>134</td><td></td></tr>
</table>

(2)　進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	理系基礎科目を5科目以上修得していること。	①　1年次に留める。 ②　1年次の在学年数は，通算5年までとする。 （在学年限（8年）－2～4年次の年数（3年）） ③　②の通算5年に達しても進級できないものについては除籍する。
2年次終了時	①　「言語文化」として英語6単位以上及び英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語（外国人留学生は日本語でもよい））のうちから1外国語4.5単位以上を含む10.5単位以上，または，英語5単位以上及び上記英語以外の1外国語6単位以上を含む11単位以上を修得していること。 ②　理系基礎科目は，物理学実験1.5単位を含む17.5単位以上を修得していること。 ③　①及び②を含め，全学教育科目で41単位以上修得していること。	①　2年次に留める。 ②　2年次までの在学年数は，通算6年までとする。 （在学年限（8年）－3～4年次の年数（2年）） ③　②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名，1単位
この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
「英語（基礎）」，「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名，各1単位
「英語（コミュニケーション）」，「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
① 卒業要件単位は6単位
「英語（基礎）」，「英語（中級）」の各1単位，「英語(コミュニケーション)」，「英語（上級）」の各2単位が必要
同一科目を複数履修することはできません。
② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
(2) 言語文化Ⅱ：
「特別英語セミナー（ライティング）」，「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」，「特別英語セミナー（リーディング）」，「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
（英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
(注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020 年度入学生用)

18. 工学部：電気電子情報工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

<table>
<tr><th colspan="3">科　目　区　分</th><th>必要単位数</th><th>履　修　基　準</th></tr>
<tr><td rowspan="10">全学教育科目</td><td rowspan="2">基礎セミナー</td><td>基礎セミナーA</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="10">49</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>基礎セミナーB</td></tr>
<tr><td rowspan="2">言語文化</td><td>英　　語</td><td>6</td><td></td></tr>
<tr><td>英語以外の外国語</td><td>6</td><td>次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。
ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語
※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">健康・スポーツ科学</td><td>講　　義</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>実　　習</td></tr>
<tr><td>文　系　基　礎　科　目</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>文　系　教　養　科　目</td></tr>
<tr><td colspan="2">理　系　基　礎　科　目</td><td>23</td><td>数　学：微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論のうちから合計8単位以上を修得すること。
物理学：力学Ⅰ・Ⅱ，電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学実験の合計9.5単位を修得すること。
化　学：化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験の合計5.5単位を修得すること。</td></tr>
<tr><td colspan="2">理　系　教　養　科　目</td><td>4</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">全　学　教　養　科　目</td><td rowspan="2">2</td></tr>
<tr><td colspan="2">開　　放　　科　　目</td></tr>
<tr><td colspan="3">小　　計</td><td>49</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">学部科目</td><td colspan="2">専　　門　　科　　目</td><td>45</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">関　連　専　門　科　目</td><td>4</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">専　門　基　礎　科　目</td><td>38</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">小　　計</td><td>87</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">合　　計</td><td>136</td><td></td></tr>
</table>

(2)　進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	理系基礎科目を5科目以上修得していること。	①　1年次に留める。 ②　1年次の在学年数は，通算5年までとする。 （在学年限（8年）－2～4年次の年数（3年）） ③　②の通算 5 年に達しても進級できないものについては除籍する。
2年次終了時	①　「言語文化」として英語6単位以上及び英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語（外国人留学生は日本語でもよい））のうちから1外国語4.5単位以上を含む10.5単位以上，または，英語5単位以上及び上記英語以外の1外国語6単位以上を含む11単位以上を修得していること。 ②　理系基礎科目は，物理学実験1.5単位を含む17.5 単位以上を修得していること。 ③　①及び②を含め，全学教育科目で41単位以上修得していること。	①　2年次に留める。 ②　2年次までの在学年数は，通算6年までとする。 （在学年限(8年) －3～4年次の年数（2年）） ③　②の通算 6 年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名，1単位
この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
「英語（基礎）」，「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名，各1単位
「英語（コミュニケーション）」，「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
① 卒業要件単位は6単位
「英語（基礎）」，「英語（中級）」の各1単位，「英語(コミュニケーション)」，「英語（上級）」の各2単位が必要
同一科目を複数履修することはできません。
② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
(2) 言語文化Ⅱ：
「特別英語セミナー（ライティング）」，「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」，「特別英語セミナー（リーディング）」，「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
（英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
(注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020 年度入学生用)

19. 工学部：機械・航空宇宙工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

科目区分			必要単位数		履修基準
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA 基礎セミナーB	2	49.5	
	言語文化	英語	6		
		英語以外の外国語	6		次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学	講義 実習	2		
	文系基礎科目 文系教養科目		4		
	理系基礎科目		23.5		数　学：微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論の合計10単位を修得すること。 物理学：力学Ⅰ・Ⅱ，電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学実験の合計9.5単位を修得すること。 化　学：化学基礎Ⅰ・Ⅱの合計4単位を修得すること。
	理系教養科目		4		
	全学教養科目 開放科目		2		
	小計		49.5		
学部科目	専門科目		37		
	関連専門科目		3		
	専門基礎科目		46.5		
	小計		86.5		
合計			136		

(2)　進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	理系基礎科目を5科目以上修得していること。	①　1年次に留める。 ②　1年次の在学年数は，通算5年までとする。 （在学年限（8年）－2～4年次の年数（3年）） ③　②の通算5年に達しても進級できないものについては除籍する。
2年次終了時	①　「言語文化」として英語6単位以上及び英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語（外国人留学生は日本語でもよい））のうちから1外国語4.5単位以上を含む10.5単位以上，または，英語5単位以上及び上記英語以外の1外国語6単位以上を含む11単位以上を修得していること。 ②　理系基礎科目は，物理学実験1.5単位を含む17.5単位以上を修得していること。 ③　①及び②を含め，全学教育科目で41単位以上修得していること。	①　2年次に留める。 ②　2年次までの在学年数は，通算6年までとする。 （在学年限（8年）－3～4年次の年数（2年）） ③　②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名，1単位
この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
「英語（基礎）」，「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名，各1単位
「英語（コミュニケーション）」，「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
① 卒業要件単位は6単位
「英語（基礎）」，「英語（中級）」の各1単位，「英語(コミュニケーション)」，「英語（上級）」の各2単位が必要
同一科目を複数履修することはできません。
② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
(2) 言語文化Ⅱ：
「特別英語セミナー（ライティング）」，「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」，「特別英語セミナー（リーディング）」，「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
（英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
(注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020 年度入学生用)

20. 工学部：エネルギー理工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

<table>
<tr><th colspan="3">科　目　区　分</th><th>必要単位数</th><th>履　修　基　準</th></tr>
<tr><td rowspan="10">全学教育科目</td><td rowspan="2">基礎セミナー</td><td>基礎セミナーA</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="10">49</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>基礎セミナーB</td></tr>
<tr><td rowspan="2">言語文化</td><td>英　　語</td><td>6</td><td></td></tr>
<tr><td>英語以外の外国語</td><td>6</td><td>次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。
ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語
※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">健康・スポーツ科学</td><td>講　　義</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>実　　習</td></tr>
<tr><td>文系基礎科目</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>文系教養科目</td></tr>
<tr><td>理系基礎科目</td><td>23</td><td>数　学：微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論のうちから合計8単位以上を修得すること。
物理学：力学Ⅰ・Ⅱ，電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学実験の合計9.5単位を修得すること。
化　学：化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験の合計5.5単位を修得すること。</td></tr>
<tr><td>理系教養科目</td><td>4</td><td></td></tr>
<tr><td>全学教養科目</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>開放科目</td></tr>
<tr><td>小　　計</td><td>49</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">学部科目</td><td colspan="2">専門科目</td><td>34</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">関連専門科目</td><td>4</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">専門基礎科目</td><td>50</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">小　　計</td><td>88</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">合　　計</td><td>137</td><td></td></tr>
</table>

(2)　進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	理系基礎科目を5科目以上修得していること。	①　1年次に留める。 ②　1年次の在学年数は，通算5年までとする。 （在学年限（8年）－2～4年次の年数（3年）） ③　②の通算5年に達しても進級できないものについては除籍する。
2年次終了時	①　「言語文化」として英語6単位以上及び英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語（外国人留学生は日本語でもよい））のうちから1外国語4.5単位以上を含む10.5単位以上，または，英語5単位以上及び上記英語以外の1外国語6単位以上を含む11単位以上を修得していること。 ②　理系基礎科目は，物理学実験1.5単位を含む17.5単位以上を修得していること。 ③　①及び②を含め，全学教育科目で41単位以上修得していること。	①　2年次に留める。 ②　2年次までの在学年数は，通算6年までとする。 （在学年限（8年）－3～4年次の年数（2年）） ③　②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名，1単位
この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
「英語（基礎）」，「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名，各1単位
「英語（コミュニケーション）」，「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
① 卒業要件単位は6単位
「英語（基礎）」，「英語（中級）」の各1単位，「英語(コミュニケーション)」，「英語（上級）」の各2単位が必要
同一科目を複数履修することはできません。
② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
(2) 言語文化Ⅱ：
「特別英語セミナー（ライティング）」，「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」，「特別英語セミナー（リーディング）」，「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
（英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
(注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020 年度入学生用)

21. 工学部：環境土木・建築学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

科目区分			必要単位数		履修基準
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA 基礎セミナーB	2	45.5	
	言語文化	英語	6		
		英語以外の外国語	6		次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学	講義 実習	2		
	文系基礎科目		4		
	文系教養科目				
	理系基礎科目		19.5		数　学：微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論のうちから合計8単位以上を修得すること。 物理学：力学Ⅰ・Ⅱ，電磁気学Ⅰ，物理学実験の合計7.5単位を修得すること。 化　学：化学基礎Ⅰ・Ⅱの合計4単位を修得すること。
	理系教養科目		4		
	全学教養科目		2		
	開放科目				
	小計		45.5		

科目区分		環境土木工学プログラム	建築学プログラム	
学部科目	専門科目	46	47	
	関連専門科目	5	8	
	専門基礎科目	37	33	
	小計	88	88	

合計	133.5	133.5	

(2)　進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	理系基礎科目を5科目以上修得していること。	①　1年次に留める。 ②　1年次の在学年数は，通算5年までとする。 （在学年限（8年）－2～4年次の年数（3年）） ③　②の通算5年に達しても進級できないものについては除籍する。
2年次終了時	①　「言語文化」として英語6単位以上及び英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語（外国人留学生は日本語でもよい））のうちから1外国語4.5単位以上を含む10.5単位以上，または，英語5単位以上及び上記英語以外の1外国語6単位以上を含む11単位以上を修得していること。 ②　理系基礎科目は，物理学実験1.5単位を含む17.5単位以上を修得していること。 ③　①及び②を含め，全学教育科目で41単位以上修得していること。	①　2年次に留める。 ②　2年次までの在学年数は，通算6年までとする。 （在学年限（8年）－3～4年次の年数（2年）） ③　②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名，1単位
この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
「英語（基礎）」，「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名，各1単位
「英語（コミュニケーション）」，「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
① 卒業要件単位は6単位
「英語（基礎）」，「英語（中級）」の各1単位，「英語(コミュニケーション)」，「英語（上級）」の各2単位が必要
同一科目を複数履修することはできません。
② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
(2) 言語文化Ⅱ：
「特別英語セミナー（ライティング）」，「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」，「特別英語セミナー（リーディング）」，「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名，各2単位
言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
（英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
(注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020 年度入学生用)

22. 農学部の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1)　卒業要件単位数

科目区分			必要単位数	履修基準
全学教育科目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	
		基礎セミナーB		
	言語文化	英語	8	
		英語以外の外国語	6	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学	講義	2	
		実習	2	
	文系基礎科目		2	
	文系教養科目		2	
	理系基礎科目		19	「理系基礎科目」のうち，生物学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学基礎Ⅰ・Ⅱ，物理学基礎Ⅰ，微分積分学Ⅰ，線形代数学Ⅰを修得し，生物学実験，化学実験，物理学実験の中から2科目以上修得し，合計19単位以上を修得すること。
	理系教養科目		4	
	全学教養科目		2	
	開放科目			
	小計		49	
学部科目	専門基礎科目		42	生物環境科学科および資源生物科学科 「専門基礎科目」のうち，必修科目42単位を修得すること。 応用生命科学科 「専門基礎科目」のうち，必修科目38単位，選択必修科目4単位以上を修得すること。
	専門科目		45	「専門科目」のうち，必修科目22単位（生物環境科学科，応用生命科学科）または24単位（資源生物科学科）＋選択必修科目23単位以上（生物環境科学科，応用生命科学科）または21単位以上（資源生物科学科）を修得すること。 なお，詳細は農学部学生便覧で必ず確認すること。
	小計		87	
合計			136	

［備考］農学部特別講義の単位認定は，上限6単位とする。

(2)　進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
2年次終了時	2年次終了時において，70単位以上修得していること。 ただし，70単位の中に全学教育科目を42単位以上含んでいること。	① 2年次に留める。 ② 2年次の在学年数は，通算6年までとする。 （在学年限（8年）－3～4年次の年数（2年）） ③ ②の通算6年に達しても進級できないものについては除籍する。
3年次終了時	3年次終了時において，110単位以上修得していること。 ただし，110単位注)の中に言語文化14単位，専門基礎科目（生命農学序説，情報リテラシー入門，生物化学1，無機化学，有機化学1を含む）26単位以上および実験実習（基盤実験実習を含む）8単位を含んでいること。	① 3年次に留める。 ② 3年次までの在学年数は，通算7年までとする。 （在学年限(8年）－4年次の年数（1年）） ③ ②の通算7年に達しても進級できない者については除籍する。

注）ここでいう110単位は，進級判定年次における修得単位数のうち，卒業要件単位数の科目区分ごとの必要単位数を上限として集計する。超えた分については，110単位に計上されない。

〔重複履修等〕

1. 原則として，同一科目を2個以上履修し試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については，同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
   ただし，履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。
3. 理系基礎科目については，開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても，卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上，受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
   「英語（サバイバル)」は原則として1クラス定員40名，1単位
   この授業は，プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
   この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」は原則として1クラス定員40名，各1単位
   「英語（コミュニケーション)」,「英語（上級)」は原則として1クラス定員20名,「英語（セミナー)」は原則として1クラス定員25名，各2単位
   ① 卒業要件単位は8単位
   「英語（基礎)」,「英語（中級)」の各1単位,「英語(コミュニケーション)」,「英語（上級)」,「英語（セミナー)」の各2単位が必要
   同一科目を複数履修することはできません。
   ② 「英語（サバイバル)」は随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
   (2) 言語文化Ⅱ：
   「特別英語セミナー（ライティング)」,「特別英語セミナー（プレゼンテーション)」,「特別英語セミナー（リーディング)」,「特別英語セミナー（資格試験英語)」は原則として1クラス定員20名，各2単位
   言語文化Ⅱで取得した単位のうち，最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
   （ただし、サバイバルに代替することはできません。）
2. 英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）
   （英語以外の外国語の1言語については，以下【英語以外の外国語】と表記する。）
   (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名，各1.5単位
   ① 卒業に必要な英語以外の外国語については，【英語以外の外国語】1，2，3，4の中から，卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
   ただし，**6単位の中には，【英語以外の外国語】3，4を合計した3単位が含まれていなければなりません。**
   ② Ⅰ期に履修した【英語以外の外国語】を，Ⅱ期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は，学部指定オビ以外（Ⅱ期，Ⅲ期の5時限目）に開講されるクラスで受講し，①と同様の単位修得が必要です。
   (注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
   (2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名，各2単位
   言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。
3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
   指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に，「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
   概要及び単位認定制度申請方法等については，81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

Ⅵ　授業時間割と履修計画

1.　履修計画の重要性

学生は，所属する学部の卒業要件を満たす単位を修得しなければなりません。また，進級要件が定められている学部においては，所定の年限までにそれを満たす単位を修得しなければなりません。従って，それらの要件を満たしうるように，全学教育科目や各学部が開講する学部科目の履修計画を立てる必要があります。それにとどまらず，各自の就学の目的や学問的な関心に応じて十分と思われる勉学を行うことができるように，主体的な判断に基づいて，履修計画を立てるよう心掛けることが重要です。

全学教育科目のうち文系教養科目，理系教養科目，全学教養科目等では，学生の自主的な学習意欲に応えるため，自由選択制を基本としており，受講に関する希望は最大限に尊重されますが，理系基礎科目などのように受講できる学部・クラスを指定している科目もあります。

各学部の卒業要件を満たす単位を在学中に無理なく履修できる機会を全ての学生に保証するため，あるいは各授業科目の目的や内容によっては段階的な履修が必要になるため，全学教育科目の時間割表は受講できる学部・クラスを指定することを前提として作成されています。このため，履修計画を立てる際は，「学部またはクラス指定の授業科目」を基本に選択してください。

ただし，**下位年次生が上位年次生の授業科目を履修することは原則としてできません。**なお，効果的に授業を行うため受講生の調整が行われる科目もあるので，後述の「Ⅸ　履修手続と履修」に記載された受講調整の制度を理解し，受講をしてください。

また，全学教育科目の原則は，同一科目を２回以上履修し，試験に合格しても，卒業要件単位としてはそのうち１科目しか認められないので，注意してください。ただし，言語文化については複数科目が卒業要件単位として認められる場合があります。

本冊子の「Ⅷ　各授業科目」において，各科目について説明しているので，これらをよく読んで，自分に最も適切な履修計画を間違いなく立てるようにしてください。なお，履修計画を立てるための情報として，本書のほか『全学教育科目授業時間割表 COURSE TIMETABLE』，及び教務システム（名古屋大学ポータル（https://portal.nagoya-u.ac.jp/）の「授業・研修」タブ内の」「学務」からログイン）に掲載している「シラバス」が用意されています。

履修計画を立てるには，まず『全学教育科目授業時間割表 COURSE TIMETABLE』の「授業時間割Ａ表」で，所属学部向けに開講されている曜日・時限ごとの大まかな科目区分を把握し，それに基づいて「授業時間割Ｂ表」で各授業科目の科目名，担当教員及び講義室等を確認してください。

次に，教務システム（名古屋大学ポータル（https://portal.nagoya-u.ac.jp/）の「授業・研修」タブ内の」「学務」からログイン）に掲載している「シラバス」でそれぞれの科目の授業内容等を確認し，履修したい科目を決定してください。

2.　コースナンバリング

本学ではカリキュラムの体系性を明示し．海外大学との単位互換等において，どの学年，もしくはどのレベルの科目なのかなど，科目の位置付けを明確にすることで，カリキュラムの国際通用性を高めるために全ての科目に 10 桁の英数字を付しています。

全学教育科目に関しては，教養教育院ホームページ（http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp）に掲載しています。

3.　学部別「言語文化」履修の指針

学部別の在学中に履修する外国語の規定・指針は次のとおりです。

【文　学　部】

3 年次に進級するためには，英語 8 単位，英語以外の 1 外国語 10 単位，合計 18 単位の修得が必要です。英語以外の外国語は，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語，日本語（外国人留学生のみ対象）のいずれかです。

2 年次から分属する各分野・専門における学修のため，英語の他に特定の外国語を履修しておくことが望ましい分野・専門と該当する外国語を下表で示しています。英語以外の外国語を履修するにあたり，下表を参考として選んでください。

ただし，上記のどの外国語を履修しても，いずれの分野・専門にも進むことができます（分野・専門の分属について疑問のある場合には，各分野・専門の教員にお尋ねください）。

分野・専門	各分野・専門において履修が望ましい英語以外の外国語
言語学	ドイツ語，フランス語
日本語学	特に指定がない
日本文学	特に指定がない
英語学	ドイツ語，フランス語，スペイン語
英米文学	ドイツ語，フランス語
ドイツ語ドイツ文学	ドイツ語
フランス語フランス文学	フランス語
中国語中国文学	中国語
哲学	ドイツ語，フランス語
西洋古典学	ドイツ語，フランス語
中国哲学	中国語
インド哲学	ドイツ語，フランス語
日本史学	特に指定がない
東洋史学	中国語
西洋史学	ドイツ語，フランス語
美学美術史学	ドイツ語，フランス語，中国語
考古学	ドイツ語，フランス語，スペイン語，中国語，朝鮮・韓国語
文化人類学	特に指定がない
社会学	ドイツ語，フランス語
心理学	特に指定がない
地理学	特に指定がない

※英語以外の，履修が望ましい外国語が複数示されている場合には，各自の関心に合わせて履修外国語を決めるようにしてください。
履修する外国語についてわからないことがあったら，各自，分属を希望する分野・専門の教員へ問い合わせてください。

【教 育 学 部】

人間発達科学の勉学と研究のためには，専攻領域のいかんにかかわらず，2 か国語以上の外国語能力が必要です。

卒業するためには，英語 8 単位以上，英語以外の外国語としてドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語及び日本語（外国人留学生のみ対象）の中から１外国語（ただし，母語を除く。）10 単位以上を修得しなければなりません。なお，これらの単位は２年終了までに修得することが望ましい。

【法　学　部】

法学部を卒業するためには，次の卒業単位が必要です。

1. 一般学生は，英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語のうち，英語８単位以上及び英語以外の外国語 10 単位以上を含む合計 18 単位～20 単位を修得しなければなりません。

   外国人留学生は日本語 10 単位以上及びその他の外国語（英語を含む。）８単位以上を含む合計 18 単位～20 単位を修得しなければなりません。

   なお，講義の受講には人数制限があるので注意してください

2. 卒業までに言語文化，健康・スポーツ科学，理系基礎科目，文系教養科目，理系教養科目，全学教養科目及び開放科目を合わせて 36 単位以上修得しなければなりません。

   なお，この 36 単位中に全学基礎科目・言語文化を 20 単位まで含むことができます。

上記の規定に従って，例えば次のような修得の仕方が考えられるので参考にしてください。

1）言語文化で 18 単位を修得する場合は，次に示すいずれかの方法により修得することが望ましい。

① 英語 8 単位＋英語以外の一つの言語 10 単位

② 英語 8 単位＋英語以外の一つの言語 6 単位＋他の英語以外の一つの言語 4 単位

2）言語文化で 20 単位を修得する場合は，次に示すいずれかの方法により修得することが望ましい。

① 英語 10 単位＋英語以外の一つの言語 10 単位

（注）英語 10 単位の修得方法は言語文化Ⅰ8 単位、言語文化Ⅱ2 単位。

なお、英語検定試験によって認定される単位は言語文化Ⅰに算入される。

② 英語 8 単位＋英語以外の一つの言語 10 単位＋他の英語以外の一つの言語 2 単位

③ 英語 8 単位＋英語以外の一つの言語 6 単位＋他の英語以外の一つの言語 6 単位

【経 済 学 部】

経済学部を卒業するためには，英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語及び日本語（外国人留学生のみ対象）のうち「英語」8 単位以上及び「英語以外の１つの外国語」10 単位以上を含む合計 18 単位以上を修得しなければなりません。

外国人留学生は，「日本語」10 単位以上及び「その他の１つの外国語（英語を含む。）」８単位以上を含む合計 18 単位以上を修得しなければなりません。ただし，外国人留学生が修得する日本語以外の外国語としては母語以外の外国語を履修するようにしてください。

【情 報 学 部】

情報学部は，それぞれに特色を持つ 3 つの学科から構成されているため，学科によって，修得科目及び単位数を異にしています。

1. 自然情報学科を卒業するためには，英語を 6 単位以上，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語，日本語（外国人留学生のみ対象）の中から 1 外国語を 6 単位以上修得しなければなりません。
2. 人間・社会情報学科を卒業するためには，英語を 6 単位以上，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語，日本語（外国人留学生のみ対象）の中から 1 外国語を 10 単位以上修得しなければなりません。
3. コンピュータ科学科を卒業するためには，英語を 6 単位以上，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語，日本語（外国人留学生のみ対象）の中から 1 外国語を 6 単位以上修得しなければなりません。

なお，これらは最小限の外国語の履修であり，卒業後において幅広い活躍をするためにも，このほかに全学基礎科目・言語文化Ⅱの学部指定オビ以外で，選択しなかった外国語やさらに上級の外国語を履修するようにしてください。

【理　学　部】

理学部を卒業するためには，英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語及び日本語（外国人留学生のみ対象）のうち英語 6 単位及び英語以外の 1 つの外国語 6 単位を含む合計 12 単位を修得しなければなりません。

なお，これらは最小限の外国語の履修です。本学部における学習・研究には，英語を始めとする外国語の力が必要不可欠であり，上記の必要単位のほかに全学基礎科目・言語文化Ⅱで，選択しなかった外国語やさらに上級の外国語をできる限り履修するようにしてください。

【医　学　部】

医学部では，それぞれに特色を持つ２つの学科が構成されているので，学科によって，修得科目及び単位数を異にしています。

1. 医学科

   3 年次に進級するためには，英語 8 単位以上，及びドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語，日本語（外国人留学生のみ対象）の中から 1 外国語 6 単位以上，合計 14 単位以上を修得しなければなりません。
2. 保健学科

   保健学科を卒業するためには，英語 4 単位以上，及びドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語，日本語（外国人留学生のみ対象）の中から 1 外国語 6 単位以上，合計 10 単位以上を修得しなければなりません。

【工　学　部】

工学部における学習・研究には，専攻分野にかかわらず外国語の力が極めて重要です。3 年次進級のための条件は次のとおりです。

英語 6 単位以上及びドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語（外国人留学生は日本語でもよい。）の中から 1 外国語 4.5 単位以上を含む 10.5 単位以上，または英語 5 単位以上及び上記英語以外の 1 外国語 6 単位以上を含む 11 単位以上を修得しなければなりません。

ただし，卒業するためには英語 6 単位以上及び上記英語以外の 1 外国語 6 単位以上の合計 12 単位以上の修得が必要ですので留意してください。

単に単位を修得することにとどまらず，実質的に語学力の涵養に努めることが大切です。

【農　学　部】

農学部における学習・研究のためにも，また，卒業後，社会人として活躍するためにも，外国語は非常に重要です。卒業するためには，英語 8 単位以上及び英語以外の 1 外国語 6 単位以上，合計 14 単位以上の修得が必要です。

4.　全学教育科目の授業時間割表（COURSE TIMETABLE）について

(1)　授業時間割表（A 表）

入学後 2 年間における履修計画を立てる上での目安として活用できるよう，全学教育科目及び各学部の学部科目の開講時間帯を概略的に表示したものです。

(2)　授業時間割表（B 表）

2021 年度に開講する具体的な授業時間割（授業科目，担当教員，学部・クラス指定，講義室など）を，期・曜日・時限ごとに表示したものです。

授業時間割表（B 表）のすべての授業科目には「時間割コード」が付してありますが，このコードは履修手続きを行う際に必要となります。

また，各曜日・時限に開講される授業科目は毎年度新たに組まれ，それに伴い，時間割コードも毎年変わるので注意してください。

なお，学部指定オビ以外（注：参照）に開講される，言語文化Ⅱ，言語文化Ⅲ及び開放科目は，春学期・秋学期で表示されています。

（注）「オビ」とは時間帯（一つの曜日・時限）のことを言います。

「学部指定オビ」とは，所属する学部，学科の指定がされている時間帯のことを言います。

「学部指定オビ以外」とは，学部，学科の指定がされていない時間帯のことを言います。

5.　全学教育科目授業要覧（SYLLABUS）について

全学教育科目授業要覧（SYLLABUS）では，授業科目ごとに，担当教員名，授業の目的，達成目標，履修上の条件，授業内容，成績評価の方法，教科書，参考書などを表示しています。授業時間割表と授業要覧を参照しながら，各自の履修計画を作成するとともに，この授業要覧を今後の学修計画に十分活用してください。

全学教育科目のシラバスは電子情報化されていますので，学内に設置されているパソコン（全学教育棟本館サブラボのパソコン等）及び学外のパソコンからいつでも自由に検索・閲覧できます。また，無線 LAN（図書館・全学教育棟などに設置）を利用して，各自所有のパソコンからも同様に検索・閲覧できます。電子シラバスは随時更新されますので，最新情報を確認してください。

操作方法については，名古屋大学ポータルに掲載している『サブラボ・CALL 利用に関する案内書』を参照してください。

Ⅶ　名古屋大学全学教育科目規程

制定　平成 16 年 4 月 1 日

名古屋大学全学教育科目規程

（趣旨）

第1条　この規程は，名古屋大学通則（平成 16 年度通則第 1 号。以下「通則」という。）第 19 条第 7 項，第 20 条第 2 項，第 21 条第 6 項並びに第 23 条の 2 第 1 項及び第 3 項の規定に基づき，名古屋大学全学教育科目（以下「全学教育科目」という。）に関し，必要な事項を定めるものとする。

（科目区分及び内容）

第2条　全学教育科目の科目区分及び内容は，次のとおりとする。

科目区分			内容
基礎科目	全学基礎科目		学問の体系や構造を認識させ，専門教育へ接続させるとともに，自主的判断能力を養う科目
		基礎セミナー	少人数のセミナー形式による多面的な知的トレーニングを行い，コモンベーシックとしての読み，書き，話す能力のかん養を図るとともに，真理探究の方法と面白さを学ばせ，大学生に必要な自立して学習する能力を育成する科目
		言語文化	外国語の能力を高め，異文化理解を深めて，国際社会に相応しい教養を身に付けさせる科目
		健康・スポーツ科学	健康に関する自己管理能力，生涯スポーツの基礎となる技能の習得，スポーツを通したコミュニケーション能力やリーダーシップの育成を目標とする科目
	文系基礎科目		人文・社会科学系分野の基礎となる科目を設定し，それぞれの分野における学問体系を認識させるとともに，自主的判断能力を養成する科目
	理系基礎科目		自然科学系分野の基礎となる科目を設定し，それぞれの分野における学問体系を認識させるとともに，自主的判断能力を養成する科目
教養科目	文系教養科目		人文・社会科学系分野の諸現象について，主題を設定し，それらの諸現象を学際的，総合的に分析，把握する能力をかん養するとともに，他の学問分野との関連性についても理解させる科目
	理系教養科目		自然科学系分野の諸現象について，主題を設定し，それらの諸現象を学際的，総合的に分析，把握する能力をかん養するとともに，他の学問分野との関連性についても理解させる科目
	全学教養科目		専門分野を問わず，豊かな人間性を育み，総合的判断能力のかん養をめざす科目
	開放科目		学生の自主的で多様な学習意欲に応えるため，学部等が開講する専門系授業科目のうち，他学部の学生の受講が可能であり，かつ，有意義であると認めたものを指定して開放する科目

（授業科目及び単位数）

第3条　全学教育科目の授業科目，単位数等は，別表のとおりとする。

2　全学教育科目の授業科目は，前項に規定するもののほか，臨時に開設することができる。

3　前項の授業科目，単位数等は，開設の都度，別に定める。

（単位の計算）

第4条　全学教育科目の授業科目の単位の計算は，次のとおりとする。

一　講義及び演習は，15 時間から 30 時間までの範囲で定める時間の授業をもって 1 単位とする。

二　実験及び実習は，30 時間から 45 時間までの範囲で定める時間の授業をもって 1 単位とする。

（履修年次）

第5条　全学教育科目の履修年次は，学部において定める。

（履修要件）

第6条　全学教育科目の履修要件は，学部規程の定めるところによる。

（履修手続）

第7条　学生は，毎学期，指定の期日までに履修しようとする授業科目について，授業担当教員の承認を得て，所属の学部長に届け出なければならない。

（単位の認定）

第8条　授業科目の履修に係る単位の認定は，学期末試験，追試験及び再試験等（以下「試験等」という。）によるもののほか，総合的に成績評価し，合格した者には，所定の単位を与える。

2　実験及び実習については，前項の規定にかかわらず，平常の成績をもって成績評価することができる。

3　試験等を受けることのできる授業科目は，前条の規定による手続を経て授業を受けたものに限る。

（追試験）

第9条　学期末試験を受けることのできなかった者は，やむを得ない理由がある場合に限り，追試験を受けることができる。

2　追試験を受けようとする者は，学期末試験終了後，指定の期日までに，所定の願書に次の書類を添え，教養教育院長に願い出て，その許可を受けなければならない。

一　傷病により学期末試験を受けることのできなかった者は，医師の診断書

二　その他やむを得ない理由により学期末試験を受けることのできなかった者は，その証明書

（再試験）

第10条　学期末試験又は追試験を受け不合格となった授業科目のある者は，教養教育院が別に定めるところにより，当該授業科目について再試験を受けることができる。

~~2　再試験を受けようとする者は，指定の期日までに，所定の願書により教養教育院長に願い出て，その許可~~

~~を受けなければならない。~~

~~3~~2　再試験の成績評価は，C-又はＦとする。ただし，この区分により難いものについては，Ｐ又はNPとする。

（成績評価）

第11条　成績評価は，名古屋大学における成績評価及びGPA制度に関する規程（令和元年度規程第68号）の定めるところによる。

（開放科目の取扱い）

第12条　第２条に規定する開放科目は，学部等が開講する専門系科目のうち，教育分科会が適当と認める授業科目とする。

2　学生は，前項の授業科目を履修しようとする場合には，所属の学部長を経て，当該授業科目を開講する学部長等に届け出なければならない。

（検定試験の成績の取扱い）

第13条　通則第23条の２の規定に基づく検定試験は，次のとおりとする。

一　実用英語技能検定

二　技術英語能力検定

三　国際連合公用語英語検定試験

四　Test of English as a Foreign Language

五　Test of English for International Communication

六　ケンブリッジ大学英語能力検定試験

七　International English Language Testing System

八　ゲーテ・ドイツ語検定試験

九　ドイツ語技能検定試験

十　DELF

十一　実用フランス語技能検定試験

十二　ロシア語検定試験

十三　ロシア語能力検定試験

十四　中国語検定試験

十五　漢語水平考試（HSK）

十六　DELE

十七　スペイン語技能検定

十八　韓国語能力試験

十九　「ハングル」能力検定試験

二十　日本語能力試験

2　前項の単位の認定は，本学の単位認定審査に合格した者に行う。ただし，前項第８号から第19号までに規定する検定試験については，国際プログラム群により受け入れられた学生以外の学生を対象とし，前項第20号に規定する検定試験については，国際プログラム群により受け入れられた学生のみを対象とする。

3　第 1 項の検定試験により与えることのできる認定可能単位数及び認定対象授業科目は，次のとおりとする。

検定試験の種類	レベル・級位	言語文化「英語」	
		認定可能単位数	認定対象授業科目
実用英語技能検定	1 級	2 単位	英語（基礎）
技術英語能力検定	ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙ		英語（中級）
国際連合公用語英語検定試験	特 A 級，A 級		英語（コミュニケーション）
Test of English as a Foreign Language TOEFL iBT テスト（TOEFL Internet-based Test）を受験した者	88 点以上		
Test of English for International Communication Listening & Reading Test を受験した者	787 点以上		
ケンブリッジ大学英語能力検定試験	CPE，CAE		
International English Language Testing System	7.0 以上		

検定試験の種類	レベル・級位	言語文化「ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語及び朝鮮・韓国語」	
		認定可能単位数	認定対象授業科目
ゲーテ・ドイツ語検定試験	A1	3 単位	ドイツ語 1～4
	A2,B1～C2	6 単位	ドイツ語 1～4
ドイツ語技能検定試験	4 級	3 単位	ドイツ語 1～4
	3 級～1 級	6 単位	ドイツ語 1～4
DELF	DELF A1	3 単位	フランス語 1～4
	DELF A2,B1～C2	6 単位	フランス語 1～4
実用フランス語技能検定試験	3 級	3 単位	フランス語 1～4
	準 2 級～1 級	6 単位	フランス語 1～4
ロシア語検定試験	入門レベル	3 単位	ロシア語 1～4
	基礎レベル，第 1～第 4 レベル	6 単位	ロシア語 1～4
ロシア語能力検定試験	4 級	3 単位	ロシア語 1～4
	3 級～1 級	6 単位	ロシア語 1～4
中国語検定試験	4 級	3 単位	中国語 1～4
	3 級～1 級	6 単位	中国語 1～4
漢語水平考試（HSK）	4 級	3 単位	中国語 1～4
	5 級～6 級	6 単位	中国語 1～4

DELE	DELE A1	3 単位	スペイン語 1～4
	DELE　A2,B1 ～ C2	6 単位	スペイン語 1～4
スペイン語技能検定	5 級	3 単位	スペイン語 1～4
	4 級～1 級	6 単位	スペイン語 1～4
韓国語能力試験	2 級	3 単位	朝鮮・韓国語 1～4
	3 級～6 級	6 単位	朝鮮・韓国語 1～4
「ハングル」能力検定試験	4 級	3 単位	朝鮮・韓国語 1～4
	3 級～1 級	6 単位	朝鮮・韓国語 1～4

検定試験の種類	レベル	言語文化「日本語」	
		認定可能単位数	認定対象授業科目
日本語能力試験	N3 レベル	3 単位	総合日本語 1～2
	N1，N2 レベル	6 単位	総合日本語 1～2 日本語セミナー1～2

（雑則）

第14条　この規程に定めるもののほか，全学教育科目に関し必要な事項は，教育分科会の議を経て，総長が定める。

別表（第３条関係）　　**※国際プログラム群学生のみを対象とした科目を除く**

区分				授　業　科　目	単位	備　考
基礎科目	全学基礎科目	基礎セミナー		基礎セミナーA	2	
				基礎セミナーB	2	
		言語文化	言語文化Ⅰ	英語（サバイバル）	1	ただし，当該科目は随意科目の単位として扱い，卒業に必要な単位に認定しない。
				英語（基礎）	1	
				英語（中級）	1	
				英語（コミュニケーション）	2	
				英語（上級）	2	
				英語（セミナー）	2	
				英語（上級リーディング）1	1	
				英語（上級リーディング）2	1	
				英語（上級）1	2	
				英語（上級）2	2	
				英語（上級）3	2	
				ドイツ語 1	1.5	
				ドイツ語 2	1.5	
				ドイツ語 3	1.5	
				ドイツ語 4	1.5	
				フランス語 1	1.5	
				フランス語 2	1.5	
				フランス語 3	1.5	
				フランス語 4	1.5	
				ロシア語 1	1.5	
				ロシア語 2	1.5	
				ロシア語 3	1.5	
				ロシア語 4	1.5	
				中国語 1	1.5	
				中国語 2	1.5	
				中国語 3	1.5	
				中国語 4	1.5	
				スペイン語 1	1.5	
				スペイン語 2	1.5	
				スペイン語 3	1.5	
				スペイン語 4	1.5	
				朝鮮・韓国語 1	1.5	
				朝鮮・韓国語 2	1.5	
				朝鮮・韓国語 3	1.5	
				朝鮮・韓国語 4	1.5	
				日本語(口頭表現)1	1.5	外国人留学生を対象
				日本語(口頭表現)2	1.5	外国人留学生を対象
				日本語(文章表現)1	1.5	外国人留学生を対象
				日本語(文章表現)2	1.5	外国人留学生を対象
			言語文化Ⅱ	特別英語セミナー（ライティング）1	2	
				特別英語セミナー（ライティング）2	2	
				特別英語セミナー（プレゼンテーション）1	2	
				特別英語セミナー（プレゼンテーション）2	2	
				特別英語セミナー（リーディング）1	2	
				特別英語セミナー（リーディング）2	2	
				特別英語セミナー（資格試験英語）1	2	
				特別英語セミナー（資格試験英語）2	2	
				初級ドイツ語 1	2	
				初級ドイツ語 2	2	
				中級ドイツ語 1	2	
				中級ドイツ語 2	2	
				上級ドイツ語 1	2	
				上級ドイツ語 2	2	
				初級フランス語 1	2	
				初級フランス語 2	2	
				中級フランス語 1	2	
				中級フランス語 2	2	
				上級フランス語 1	2	
				上級フランス語 2	2	
				初級ロシア語 1	2	
				初級ロシア語 2	2	
				中級ロシア語 1	2	
				中級ロシア語 2	2	
				上級ロシア語 1	2	
				上級ロシア語 2	2	

区分				授　業　科　目	単位	備　考
基礎科目	全学基礎科目	言語文化	言語文化Ⅱ	初級中国語１	2	
				初級中国語２	2	
				中級中国語１	2	
				中級中国語２	2	
				上級中国語１	2	
				上級中国語２	2	
				初級スペイン語１	2	
				初級スペイン語２	2	
				中級スペイン語１	2	
				中級スペイン語２	2	
				上級スペイン語１	2	
				上級スペイン語２	2	
				初級朝鮮・韓国語１	2	
				初級朝鮮・韓国語２	2	
				中級朝鮮・韓国語１	2	
				中級朝鮮・韓国語２	2	
				上級朝鮮・韓国語１	2	
				上級朝鮮・韓国語２	2	
				初級古典ギリシャ語１	2	
				初級古典ギリシャ語２	2	
				初級ラテン語１	2	
				初級ラテン語２	2	
				初級イタリア語１	2	
				初級イタリア語２	2	
				初級ポルトガル語１	2	
				初級ポルトガル語２	2	
				中級ポルトガル語１	2	
				中級ポルトガル語２	2	
				ベトナム語入門	2	
				上級日本語(文章表現)1	2	外国人留学生を対象
				上級日本語(文章表現)2	2	外国人留学生を対象
			言語文化Ⅲ	文化事情（英語）	2	英語及び英語以外の外国語の科目として扱わない。
				文化事情（ドイツ）1	1	英語及び英語以外の外国語の科目として扱わない。
				文化事情（ドイツ）2	1	英語及び英語以外の外国語の科目として扱わない。
				文化事情（フランス）1	1	英語及び英語以外の外国語の科目として扱わない。
				文化事情（フランス）2	1	英語及び英語以外の外国語の科目として扱わない。
				文化事情（中国）1	1	英語及び英語以外の外国語の科目として扱わない。
				文化事情（中国）2	1	英語及び英語以外の外国語の科目として扱わない。
		健康・スポーツ科学		健康・スポーツ科学講義	2	
				健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1	健康･スポーツ科学実習Ⅰの実施種目は，次のとおりとする。 アダプテッド，テニス，バドミントン，卓球，ベースボール，ソフトボール，サッカー，バレーボール，バスケット，ゴルフ，トレーニング，スイミング，太極拳，フィットネス，フットサル，ラケット，エアロビクス，アーチェリー及びアルティメット
				健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1	健康･スポーツ科学実習Ⅱの実施種目は，次のとおりとする。 アダプテッド，テニス，バドミントン，卓球，ベースボール，ソフトボール，サッカー，バレーボール，バスケット，ゴルフ，トレーニング，スイミング，太極拳，フィットネス，フットサル，ラケット，エアロビクス，アーチェリー，アルティメット，スキー及びトレッキング

区分		授　業　科　目	単位	備　考
基礎科目	文系基礎科目	哲学	2	
		歴史学	2	
		文学	2	
		地理学	2	
		社会学	2	
		心理学Ⅰ	2	
		心理学Ⅱ	2	
		教育学	2	
		日本国憲法	2	
		法学	2	
		政治学	2	
		経済学A	2	
		経済学B	2	
		経営学	2	
		国際関係論	2	
		国際開発学	2	
		比較文化論	2	
		比較教育論	2	
		統計学	2	
	理系基礎科目	微分積分学Ⅰ	2	情報学部，理学部，工学部，農学部対象
		微分積分学Ⅱ	2	情報学部，理学部，工学部，農学部対象
		線形代数学Ⅰ	2	情報学部，理学部，工学部，農学部対象
		線形代数学Ⅱ	2	情報学部，理学部，工学部，農学部対象
		複素関数論	2	情報学部自然情報学科・コンピュータ科学科，理学部，工学部対象
		数学通論Ⅰ	2	医学部対象
		数学通論Ⅱ	2	医学部対象
		数学入門	2	文系学部対象
		力学Ⅰ	2	工学部対象
		力学Ⅱ	2	工学部対象
		電磁気学Ⅰ	2	理学部物理学科を志望する学生及び工学部対象
		電磁気学Ⅱ	2	理学部物理学科を志望する学生及び工学部対象
		物理学基礎Ⅰ	2	情報学部自然情報学科・コンピュータ科学科，理学部，医学部，農学部対象
		物理学基礎Ⅱ	2	情報学部自然情報学科・コンピュータ科学科，理学部(物理学科を志望する学生を除く。)，医学部，農学部対象
		物理学実験	1.5	情報学部自然情報学科・コンピュータ科学科，理学部，医学部医学科，工学部，農学部対象
		物理学入門	2	文系学部対象
		化学基礎Ⅰ	2	情報学部自然情報学科・コンピュータ科学科，理学部，医学部，工学部，農学部対象
		化学基礎Ⅱ	2	情報学部自然情報学科，理学部，医学部，工学部，農学部対象
		化学実験	1.5	情報学部自然情報学科，理学部，医学部医学科，工学部，農学部対象
		化学入門	2	文系学部対象
		生物学基礎Ⅰ	2	情報学部自然情報学科・コンピュータ科学科，理学部，医学部，農学部対象
		生物学基礎Ⅱ	2	情報学部自然情報学科，理学部，医学部，農学部対象
		生物学実験	1.5	情報学部自然情報学科，理学部，医学部保健学科，農学部対象
		生物学入門	2	文系学部対象
		地球科学基礎Ⅰ	2	情報学部自然情報学科・コンピュータ科学科，理学部，農学部対象
		地球科学基礎Ⅱ	2	情報学部自然情報学科，理学部，農学部対象
		地球科学実験	1.5	情報学部自然情報学科，理学部，農学部対象
		地球科学入門	2	文系学部対象
		情報リテラシー(文系)	2	文系学部対象
		数学特別講義		ただし，当該科目は随意科目の単位として扱い，卒業に必要な単位に認定しない。

		授　業　科　目	単位	備　考
教養科目	文系教養科目	生と死の人間学	2	
		現代社会の思想的課題	2	
		科学・技術の哲学	2	
		ことばの不思議	2	
		文化を読む	2	
		表象と文化	2	
		芸術と人間	2	
		社会変動と人間生活	2	
		人間と行動	2	
		現代社会と教育	2	
		教育と発達の心理	2	
		現代社会と法	2	
		民主主義の歴史と現在	2	
		市場経済と社会	2	
		産業社会と企業	2	
		金融と生活	2	
		グローバル化時代の国際社会	2	
		開発の光と影	2	
		人間と環境	2	
		社会と環境	2	
		研究方法論	2	
		比較報道・放送論	2	
		グローバル化と国際教育交流	2	
		映像とメディア・リテラシー	2	
	理系教養科目	図情報とコンピュータ	2	
		情報メディアとコミュニケーション	2	
		システム工学入門	2	
		情報リテラシー(理系)	2	
		情報科学入門	2	
		現代数学への流れ	2	
		先端材料と物性物理	2	
		エレクトロニクスと物性科学	2	
		物理現象の科学	2	
		原子・分子の科学	2	
		物質世界の認識	2	
		物質と材料の科学	2	
		物質と科学	2	
		現代の生命科学	2	
		現代医療と生命科学	2	
		生涯健康と医学	2	
		健康増進科学	2	
		遺伝子の世界	2	
		食と農の科学	2	
		動植物の科学	2	
		微生物の科学	2	
		バイオテクノロジー	2	
		地球惑星の科学	2	
		自然環境と人間	2	
		エネルギーと環境	2	
		自然環境と人間社会	2	
		環境問題と人間	2	
		都市と環境	2	
		大気水圏環境の科学	2	
		宇宙科学	2	
		博物館概論	2	

区　分		授　業　科　目	単位	備　考
	全学教養科目	現代芸術論 芸術と人間精神 表象芸術論 音楽芸術論 科学・技術の倫理 科学技術史 科学技術社会論 科学技術とジェンダー 宗教と人類文化 異文化論 ビッグバンから現代社会まで 留学生と日本 名大の歴史をたどる 大学でどう学ぶか キャリア形成論 学問の面白さを知る 大学における環境と安全 切迫する自然災害に備える アーカイブズ学入門-文書史料の世界をあるく- 人間関係とコミュニケーション ジェンダーの視点から考える21世紀の日本社会 ピア・カウンセリング 特別講義	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
	開放科目	学部等の専門系科目のうち教育分科会が適当と認めた授業科目		

（注）理系基礎科目の数学特別講義及び全学教養科目の特別講義に係る授業科目，単位数等及び開放科目の学部等の専門系科目に係る授業科目は，教育分科会が別に定める。